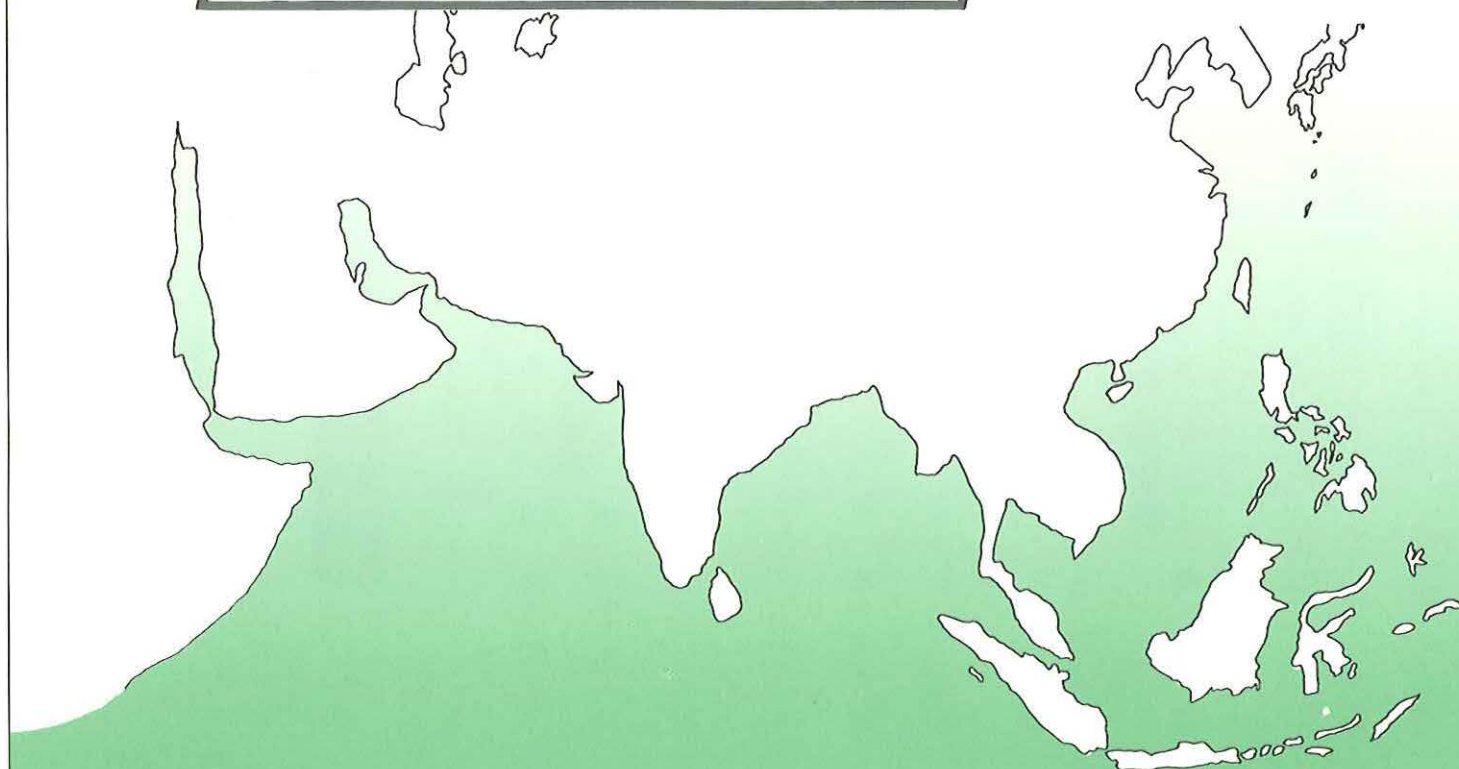


Asian Population & Development

アジア

人口と開発

ISSN 091 1-5684



1989・No.28

財団法人 アジア人口・開発協会 (APDA) 発行

目次

巻頭言

APDA主催第5回人口と開発アジア国会議員代表者会議

―開会式挨拶― 固い意志で行動を

フィリピン上院議員 レティシア・ラモス・シャハニ

―主催者挨拶― 新しい生命、子孫達に明るい未来を

財団法人アジア人口・開発協会理事長 田中龍夫

―GCPPD会長挨拶― 人口問題解決は地球人類的な課題

人口と開発に関する国会議員世界委員会会長 福田 越夫

―挨拶― 世界平和と繁栄のために人口政策プログラムの実施を

UNFPA事務局長 ナフィス・サディク

基調講演

経済開発を遅らせる人口急増

フィリピン国家経済開発庁長官 ソリタ・C・モンソド

―特別講演― 安定した平和で繁栄するアジアを

AFPD副議長 胡克實

―研究発表― 中国―人口開発に関する基礎調査

日本大学人口研究所名誉所長 黒田俊夫

特別講演

主要食糧は自給体制の確立で

AFPD議長 佐藤隆

―カントリーレポート・日本―

バランスのとれた発展のため過密、過疎の解決が課題

衆議院議員 武村正義

マニラ会議を顧みて

（助）アジア人口開発協会参与・事務局長 広瀬次雄

フィリピン経済協力の一部を視察して

APDA・日誌

（助）アジア人口・開発協会発足並びに事業経過

本協会実施調査報告書及び出版物

58

57

53

47

43

40

33

30

24

20

14

11

8

2

1

巻頭言

—アジア人口学への入門—

最近、アジアの経済を単に独立後の時期に限定して論じることが不十分であると確信するようになった。インドの経済自由化を勉強してみて、独立後の計画的開発体制下で形成されてきた非効率な経済構造の改造だけでなく、植民地時代の経済遺制の克服という課題にもインドが直面していることがわかった。中国の現代化に関しても、自力更生型集権経済の改造だけでなく封建遺制の克服も必要であることは、はっきりと認識されているようである。インドや中国において、新古典派開発経済学者が主張しているように、政策を自由化して市場メカニズムにまかすさえすれば経済開発が実現するとはとても思えない。経済学者にも、長い期間を見通す歴史学的接近が最も必要とされているはずである。

このとき、人口は最重要の変数となろう。最近の研究で、経済と人口との間にいくつかの明瞭な相互関係があることは確認されている。また、過去数年「儒教と経済」「イスラーム経済」といった研究会に参加して人口現象には宗教が強い影響を与えているのではないかと思いはじめている。また拡大家族や核家族かといった家族制度が夫婦の出生決意と強いかかわりをもっていることもほぼ確かである。アジアの人口は、宗教・文化・経済そして歴史がからみあっている興味つきない現象である。遅ればせながらアジア人口学に入門してみようと思っている昨今である。

（原 洋之介 東京大学教授）

APDA 主催

第5回人口と開発アジア国会議員代表者会議

十カ国参加、マニラで開催



掘り下げた討議で成果あげる

開会式風景 — 壇上左からミッターインド上院議員、アキノ・オレタフィリピン下院議員、福田赳夫元首相、シャハニフィリピン上院議員、田中龍夫APDA理事長

財団法人アジア人口・開発協会（APDA・田中龍夫理事長）主催の「第五回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」は二月一七・一八の両日、フィリピン国マニラのフィリピン・インターナショナル・コンベンションセンターで、日本はじめ中国、インド、フィリピンなど一〇カ国四一人の各国々会議員と、UNEP A（国連人口基金）、IPPF（国際家族計画連盟）などのオブザーバー、専門家など六〇人が参加して開催された。

アキノ比大統領をマ宮殿に表敬

参加議員団は、開会式に先立ち一七日午前九時からマラカニアン宮殿にアキノ大統領を表敬訪問。同大統領は田中龍夫APDA理事長らと和やかな雰囲気のうち握手、会議の成功を希望した。さらに同日午後二時過ぎから同大統領は福田赳夫・元首相（人口と開発に関する国会議員世界委員会々長・GCPPD会長）、佐

藤隆AFPDP議長（人口と開発に関するアジア議員フォーラム議長）と同宮殿で特別会見し、地球レベルで深刻化しつつある人口と開発、食糧、環境資源問題について貴重な意見を交換した。



マラカニアン宮殿でアキノ比大統領と握手をする田中龍夫APDA理事長と同大統領を表敬した各国議員団

福田元首相らが開会式で挨拶

午前一〇時三〇分からの開会式には、二〇〇人の関係者が参加して盛大に行なわれた。

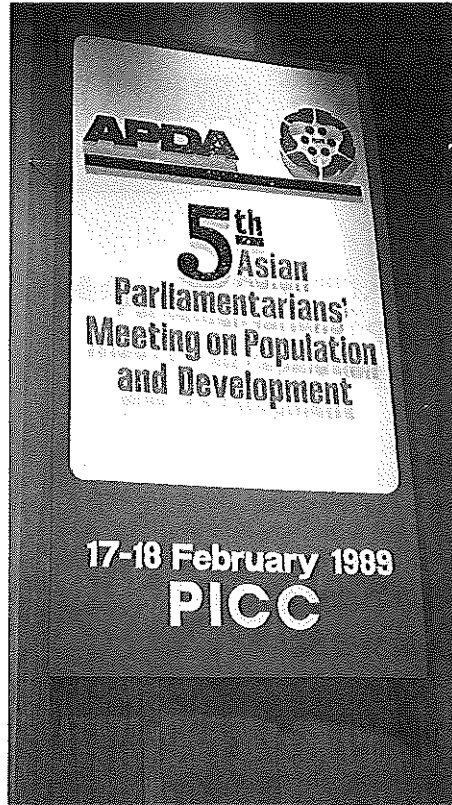
参加一〇カ国の国旗がボーイスカウトの手で入場したあと開催国フィリピン国歌が演奏され、フィリピン国上院議員レティシア・ラモス・シャハニ女史、田中龍夫APDA理事長、福田赳夫GCPD会長、サット・ポール・ミッターAFPPD事務総長（インド国上院議員）、ナフィス・サディックUNFPA事務局長（代理）、トルファン・K・マングンUNDP・UNFPA駐フィリピン代表が、それぞれ別項（一部略）のように挨拶した。

このあと、ソリタ・C・モンソド・フィリピン国家経済開発庁長官が基調講演を行なった。

午後は、胡克實AFPPD副議長（中国全人代常務委員）の「中国の人口」と題する特別講演、黒田俊夫・日大人口研名誉所長の「中国—人口・開発に関する基礎調査」に関する研究発表。ホワン・フラビエル国際農村再建研究所々長の「フィリピン—農村家族計画教育への農業部門アプローチ」、佐藤隆AFPPD議長の「人口と食糧」についての講演があり、第一日目はしめくくりとして広瀬次雄APDA事務局長の説明でスライド「日本の人口と家族」が上映された。（英、中、インドネシア、日本の四カ国語版）

各国が素直に実情を報告

二日目の一八日は午前九時から「人口転換と経済社会開発—二一世紀に向けての戦略」について、査瑞伝（中国全人代常務委員）、サット・ポール・ミッター（インド国上院議員）、スダ・ジョ



会場のAPDA会議の看板



熱心に発表を聞く日本議員団 左から田中龍夫（衆・自）、佐藤隆（同）、矢追秀彦（衆・公）、阿部昭吾（衆・社民連）、武村正義（衆・自）、関山信之（衆・社）の各議員

このあと、総括討議に入り、午後五時から閉会式を行ない、アントニオ・レ・クエンコ・フィリピン下院副議長と、田中龍夫APDA理事長から挨拶があり、実り多い成果を収めて二日間にわたる同会議を終えた。

シ（同国議員）、マクボン（インドネシア国議員）、武村正義（日本、衆・自）、ス・サン・モツ（韓国議員）、ダト・ザイナル・ザイン（マレーシア国議員）、ティカ・ジュン・タパ（ネパール国議員）、ゲリー・テブス（フィリピン国下院議員）、プアングラット・ウイワカノンド（タイ国上院議員）の一〇議員がそれぞれカントリールレポートを発表、午後四時まで熱心に討議した。

- Lee Jong Ryool (議員)
- マレーシア
 - Rahmah Osman (上院議員・前運輸副大臣・AFP PD副事務総長)
 - Zainal Abidin bin Zain (議員)
- ネパール
 - Tika Jung Thapa (議員)
- シリア
 - Hajer Sadek (議員)
- タイ
 - Prasop Ratanakorn (上院議員・AFP PD副議長)
 - M. L. Tridhosyuth Devakul (上院議員)
 - Puangrat Wiwakanondo (上院議員)
- フィリピン
 - Leticia Ramos Shahani (上院議員)
 - Teresa Aquino-Oreta (下院議員)
 - Joseph F. Estrada (上院議員)
 - Ernesto Herrera (上院議員)
 - Orlando S. Mercado (上院議員)
 - Santanina T. Rasul (上院議員)
 - Alberto G. Romulo (上院議員)
 - Wigberto Tanada (上院議員)
 - Agapito A. Aquino (上院議員)
 - Venice B. Agana (下院議員)

会議参加者 (敬称略)

- 日本
 - 福田赳夫 (元首相・国際人口問題議員懇談会会長)
 - 田中龍夫 (衆・自民、APDA理事長)
 - 佐藤 隆 (衆・自民、AFP PD議長)
 - 矢追秀彦 (衆・公明)
 - 阿部昭吾 (衆・社民連)
 - 関山信之 (衆・社会)
- 中国
 - 胡克實 (議員・AFP PD副議長)
 - 查瑞伝 (全人代常務委員会委員)
- インド
 - Sat Paul Mittal (上院議員・AFP PD事務総長)
 - Sudha Joshi (議員)
 - Veena Varma (議員)
 - Bibha Ghosh Goswami (議員)
- インドネシア
 - Machbon (議員)
- 韓国
 - Shu Sang Mok (議員)

安藤博文 (UNFPA事業企画調整局長)	}	Rodolfo P. Albano (下院議員)
松村昭雄 (人口と開発に関する国会議員世界委員会 (GCPPD) 事務局長)	•	Florante L. Aquino (下院議員)
Cecil Reyes (GCPPD事業部長)	}	Amado S. Bagatsing (下院議員)
Bernard Alvihare (国際家族計画連盟事務局長相談役)	•	Salvador H. Escudero III (下院議員)
Jeanni Peterson (UNFPAフィリピン担当局長)	}	Jose Carlos V. Lacson (下院議員)
[コーディネーター]	•	Felicito C. Payumo (下院議員)
広瀬次雄 (APDA参与・事務局長)	}	Hilario L. de Pedro III (下院議員)
青木洋子 (APDA事務局次長)	•	Raul S. Roco (下院議員)
遠藤正昭 (APDA業務課長)	}	Margarito B. Teves (下院議員)
桜井久美子 (APDA職員)	•	○来賓
花光圭子 (APDA職員)	}	福田赳夫 (元首相、国際人口問題議員懇談会会長、人口と開発に関する国会議員世界委員会理事長)
	•	Solita C. Monsod (フィリピン国家経済開発庁長官)
	}	Antonio V. Cuenco (フィリピン下院議長代理)
	•	Turhan K. Mangun (UNFPA地域代表)
	}	●専門家
	•	黒田俊夫 (日本大学人口研究所名誉所長)
	}	Juan Flavier (フィリピン国際農村復興研究所会長)
	•	●オブザーバー
	}	Jyoti Shanker Singh (国連人口基金 (UNFPA) 広報・渉外局長)
	•	
	}	

開会式挨拶

固い意志で行動を

画期的な会議開催に感謝

フィリピン上院議員

レティシア・ラモス・シャハニ

福田元総理、国連開発計画のモンソドさん、UNFPAのサデイクさん、アジア地域各国の議員の皆様、国際機関の代表の皆様、フィリピン上下両院の議員の皆様、また、駐フィリピン大使館の代表の方々、また、フィリピンの中央・地方自治体の皆様、フィリピン人口と開発国会議員委員会を代表して、皆様を心からご歓迎申し上げます。これだけ多くの著名な方々においでいただいたということは、この人口と開発という重要な問題に関し、現在行動することがいかに必要とされているかということを実に示すものだと考えています。

また、この会議を主催いただいたAPDA、共催いただいたフィリピン人口と開発国会議員委員会、さらに共賛団体であるAFPDP、グローバルコミティ、国連人口基金に対して感謝を申し上げます。

今回の国際会議は、フィリピンにとりましても、またフィリピンの議員にとりましても、画期的、劇的なものであると位置付けをしております。八八年九月二日にヒューマンサバイバルと、人口と開発に関するフィリピン会議が開かれました。フィリピンの上下両院の議員が多数参加して開かれたこの会議の議題は、行動計画を立てるということでした。基本的な前提に基づいて、現在の人口行動計画を実施するに当たっての溢路を討議し、解決策をさぐり、そして提言をするということが、会議の目的で

ございました。そしてその会議を受けて、現在、人口と開発に関する法案一五本がフィリピン国会に提出されています。また、それぞれの委員会においてこの人口と開発に関する一五の法案が、現在、検討されています。これほどに人口と開発に関する関心が高まってきたということでございます。

人口行動計画を今後とも実施していくことの必要性というものが認識されているわけですが、これに関しましては、もっと効率の良い方法が必要ではないかという考え方がございます。つまり、フィリピンの社会経済計画の中で欠けているものは何かということを見きわめる必要があるのではないかと。

現在の人口動態をこのまま放置するならば、経済開発、社会開発は進行できないということを確認しなくてはなりません。これ以上人口が増加すれば、それを保証する保健を始め、その他の施設が間に合わないということでもあります。現存している人口の生活の向上にもつながりません。年間およそ一三〇万人の人口が増えていては、住宅や教育はもちろん、生産性の向上という面でもとても追い付けません。食糧供給についても状況は同じです。社会政策における人口政策の重要性は、アジア地域の各国において等しく認識されているところだと思います。

またそうであるならば、資源の開発と人口とのバランスを確保しなくてはなりません。もしそれを怠ると、人口の爆発的な増大に伴う貧困の悪化に今後直面することになってしまいます。

現在、社会が直面している問題には、児童の労働や、人工妊娠中絶や、婚前交渉、さらには都市におけるスラムの増加、また犯罪率の上昇などがあります。こういう状況に対し政府としては何をしなくてはならないのでしょうか。政府の責任には二つがあると思います。

一つには、社会の管理者として、民間の生産性の向上分を国民間に配分するということがあります。雇用の水準をある程度確保しながら、新しい雇用を作る努力をする。これは同時に、人口が野放しに増えることを避けるよう、家族を誘導していくということでもあります。その家族の扶養能力に見合った数の子供を産むよう誘導をするということを、社会的バランスとして行っていかなくてはなりません。

第二に、一般の国民は子供一人の社会に対するコスト、国に対するコストというものがどれぐらいかということを知りません。個人の出生行動が国家のコストに繋がるということをもっと国民に認識させていく必要があります。

所得水準が低いフィリピン社会においては、政府が公共サービスのすべてを提供しなければならないというのが現状です。またそのためには、供給する政府側としても、十分なデータを情報として収集しなければなりません。正確なデータを収集して、公共政策を立案しサービスを提供していかなければなりません。

国会議員は近視眼的で、長期的な視野に立って物を考えることができないということがよく言われております。栄養失調で亡くなる子供達や出産で命を落とす母親の数が決して減ってはいないという現状があります。こういった現状がフィリピンの社会経済の悪化を招いています。この現実に対し、私どもは意志を固くして行動に移らなくてはなりません。またその行動はより良い将来をこの地球にもたらすという共通の目的に向かつての、コンセンサスにのっとったものでなければならないと考えております。

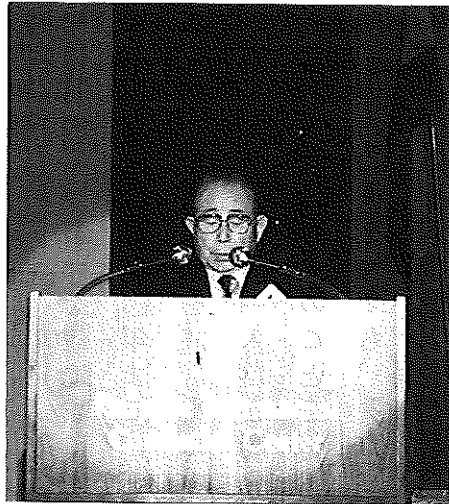
各国からお集まりいただきました議員の皆様方、私どもはアジア人として、この激増する人口というチャレンジに答えて行かなければならないし、また必ず応えて行けると確信しております。

主催者挨拶

新しい生命、 子孫達に明るい未来を

財団法人アジア人口・開発協会理事長

田 中 龍 夫



ご列席の皆様、「第五回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」を開催するにあたり、ご尽力を賜りました、フィリピン国の大統領、国会議長はじめ政府、学識者の方々、また特に共催機関として格別のご配慮、ご指導を賜りました、レティシア・ラモス・シャハニ上院議員、テレサ・アキノ・オレタ下院議員他、フィリピン人口と開発国会議員委員会各位の皆様、主催団体である財団法人アジア人口・開発協会を代表して、心から感謝と御礼を申し上げます。

アジアの国々から公務ご多用の中をご参集いただきました国会議員、専門家並びに関係者の皆様、とりわけ、一九八二年二月本協会の設立以来、多大なるご指導とご支援をいただいたUNFPAはじめ関係各位のご協力に心より御礼申し上げます。

また、本会議を、人口問題解決のため世界各国を献身的に奔走された、私達の敬愛する、故サラスUNFPA事務局長の母国であるこの地で開催できますことは、大変喜ばしいことであります。

本会議は、アジア諸国の人口と開発に携わる国会議員の活動に資するため、第一回、第二回会議を一九八五年、八六年と東京で

行い、その後一九八七年、第三回会議をタイで、一九八八年の第四回会議をマレーシアで、現地のご協力を得て開催してまいりました。

本会議は専門家も交え、人口と開発に携わるアジア各国の国會議員が一堂に集い、地域規模で問題化している人口と開発問題について、相互理解を深め、共通の課題の解決に向けて活動する上で多大な成果を挙げてまいりました。

ご高承のとおり、私どもは設立当初よりアジアの人口と開発の問題に焦点を当て、活動してまいりました。世界の人口の六割を占めるアジアの経済社会開発は、環境、資源、エネルギー、食糧、国境、宗教、政治等を超え、地球規模で解決を迫られる問題であります。同時にアジア各国が真剣に考えていかねばならぬ問題であることは疑いありません。

我々は、一九八一年に北京でアジアの国會議員による「人口と開発に関する会議」を他地域に先駆けて開催いたしました。その折には、西暦二〇〇〇年までに、『アジアの人口増加率を一％に抑える』ということ宣言文の中に含めました。その後一九八四年、ニューデリーでの「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第一回大会」でもそのことを再確認し、一昨年九月の北京で開催した『第二回大会』でも、重ねて再確認したわけです。

アジア人口三〇億人を契機に、この『今世紀末には一％の人口増加率を』ということを実現するために一層の努力を傾ける必要があります。

自分の国のために我々政治家が努力することは当然のことです。ただ、こと『人口』に係る諸問題に関しては、一国単位、地域単位のみで完結できるものではありません。

我々政治家は、地球というこの星に生活する全ての人々と、そ

して今日この瞬間にも生まれている新しい生命、子孫達に明るい未来を約束してあげる「道」を探し出す大きな責任があります。

この度日本からは、本協会が行いました、中国はじめ、ネパール国での調査結果および日本の事例に関するものを会議の討議資料として、本日午後ご報告いたします。

「人口転換と経済社会開発―二一世紀に向けての戦略―」というセッションⅡでは、参加各国のご発表を予定しております。

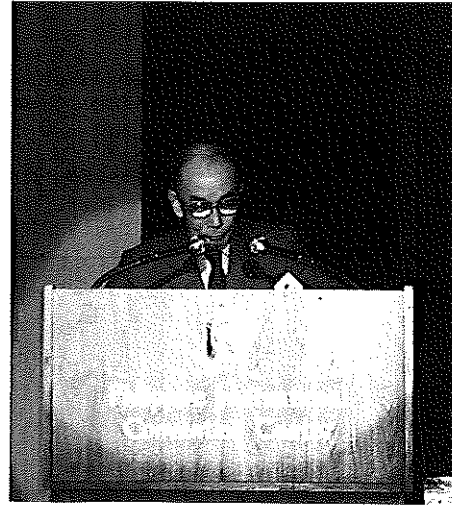
本会議は二日間の日程と限られた時間のなかではありますが、我々アジアの国々の人々、そして全世界の人々の平和と福祉の向上のために、その原点ともいうべき人口問題への取り組みを通し貢献できるよう、自由かつ十分な討議を行っていただければ、主催者としてこの上ない喜びとするところであります。

ありがとうございます。

人口問題解決は 地球人類的な課題

人口と開発に関する国会議員世界委員会会長

福田 赳夫



皆さんおはようございます。

本会議の準備に当たられました、
レティシア・ラモス・シャハニ
議員、およびアキノ・オレタ議
員、またフィリピン政府からモ
ンソド長官、ならびに国連など
世界各地からのご来賓の皆様、
さらに、アジア各国からお集ま
りいただいた我々の同胞である議員の皆さん。今日フィリピン国
マニラにおきまして、第五回人口と開発に関するアジア国會議員
代表者会議が開催されますことは誠に喜ばしいことであり、人口
と開発に関する国會議員世界委員会を代表し、また日本の議員団
を代表いたしました一言ご挨拶を申し上げます。

フィリピンと申しますと、ここにご列席の皆様が良くご承知の
通りであります。国連人口基金の一九六九年の創立以来、御亡
くなりになるまで事務局長を務められておりました、このフィリ
ピン国ご出身のラファエル・サラス氏のことです。人口問
題は二一世紀最大の問題であります。この問題を正しくとらえ、
真面目から取り組み、全世界の中に人口問題が二一世紀最大の問
題であることの認識をうちたてられたのはサラス氏であります。
ここに皆さんと共に、サラス氏のご功績を偲び、そのご冥福を御

祈りいたしたいと思えます。

私とフィリピン国との関わりは深く、現に私は、日本におけるフィリピン協会の会長であります。また私は一九七七年、日本の総理大臣といたしましたして、就任直後にアジア諸国を歴訪いたしましたのでありますが、その旅行の最後に締めくくりといたしましたして、御地マニラにおきまして、我国の世界、とくにアジアに臨む基本姿勢を明らかにする機会を得たのであります。すなわちその要点は、第一に、日本は平和に徹し、断じて軍事大国への道はたどらないということであります。

第二に、アジア諸国との間に、政治経済のみならず、社会・文化など広い分野で真の友人として、心と心の触れ合う信頼関係を築くこと。

第三に、日本とアジア諸国との関係は、対等の協力者の関係でなければならぬし、また、政治体制の異なる国であっても、その体制の違いを越えて友好の関係をうち立てなければならぬと、この三点を強調したのであります。日本ではこの私のスピーチのことを、福田ドクトリンと申しておりますが、今も我国外交の基本方針として受け継がれてきております。

私はその後何回か、お国を訪れる機会がありました。今回はアジアの人口と開発の問題を皆様と一緒に考えるため、日本の参加議員と共にやってきました。ご高承のとおり、日本は現在六〇数ヶ国にある人口問題議員グループに先駆け、一九七四年に人口と開発に関する日本の議員グループ「国際人口問題議員懇談会」を結成し、現在私が会長を務めておりますが、皆さんと相い協力しながら活発な活動を展開してまいりました。

議長、私はつとに人類が二一世紀を迎えるに当たり、その前に解決しておかなければならない問題が三つある、その解決がない

と二一世紀はおろか、人類の未来もないと警告してまいりました。つまり、その第一は世界平和の問題、第二は世界経済安定化の問題、第三は人口とそれに関連する諸問題であります。

世界政治は第二次世界大戦以来、東西対立という図式で動いてまいり、今日なおそれが続いています。その東西対立の中から、当然のことながら、軍拡競争が生まれました。その競争はついに、核競争にまで拡大されました。核兵器は今日、人類を六〇回以上も皆殺しにできるほどの量が備蓄されています。それに手がかかったら地球人類の終焉です。しかも、それに手がかからないという保障もまたないのであります。実に恐るべきことでもあります。しかも、この軍拡競争のための国々の財政負担は膨大です。軍拡競争の中心であるアメリカ、ソビエト両国共にその財政負担の重圧に悩んでいます。アメリカにおいては双子の赤字が容易ならざる深刻な問題となっており、ソビエトにおいては国家予算の約半分を軍事費に使っており、当然これはソビエト国民の生活を圧迫しています。今やそれが限界にきています。そしていま、米ソ両国において、おそまきながらこの軍拡競争への反省の動きが出てきました。六年間の長きにわたり、アメリカ、ソビエト両国の首脳は会談をしませんでした。この六年間の中絶の後を受け、一九八五年、米ソ両国の首脳会談が再開されました。この首脳会談は大変な影響を全世界に及ぼしております。この首脳会談を頂点として、世界各地に緊張緩和の動きが見られるようになりました。

アジアにおいてはどうか。三〇年来、対立を続けてまいりました中国、ソビエトの両国が和解のための話し合いを始めています。さらにカンボジア問題。この一〇年間、我々の大変な関心事でしたが、このカンボジア問題も解決への歩みを始めました。朝鮮半島におきましても、南北対話の動きが始まっております。

す。イラン・イラク戦争も一〇年目にして初めて解決に向かおうとしております。さらにソビエト軍は、アフガンから撤退しようとしております。アフリカ各地においても、あるいは中央アメリカにおいても、同じような動きが始まっています。この世界各地での緊張緩和の動き。これは世界政治の面での、戦後の本当の新しい流れであります。

私は一縷の望みが世界政治の面に出てきたと見るのであります。世界はこの新しい流れを大事に大事に育てていくべきであると考えております。

さて、これに反して、世界経済の面では、今日のこの不安定な状態が解消されるような流れはまだ見られません。全てはこれからです。世界経済の基軸はなんと言いましてもアメリカですが、レーガン氏に代わって出現したアメリカの新政権が、いわゆる双子の赤字問題の処理などに賢明な対応を打ち出すかどうか、またその処理に成功できるかどうか。また発展途上国の累積債務の処理に有効な手が打てるかどうか、などなど、世界経済の帰趨はこれからです。

さて、世界政治や経済の問題は当面の問題ですが、私がもう一つの重要問題として提起した問題、つまり、人口とこれに関する諸問題は地球の人類にとり、より基本的で、かつより対処の困難な問題であります。

申し上げるまでもありませんが、世界人口は今世紀初めに一六億人でありましたが、今世紀末には六二億人になろうとしております。実に四倍の増加です。この調子で人口が増えて行けば、人類の将来はどのようなことになって行くのでしょうか。今日、すでに地球上では砂漠化が進行しています。さらに大気圏は汚染され、フロンガス、酸性雨、地球温室化の問題など、おそるべき事態が

進行しています。それらはほとんど全て、人口の急増問題と深い関わりを持っているのです。かくして、人口問題は今や二一世紀の入口である今日におきまして、放置することのできない、きわめて由々しき地球人類的な課題となつてまいつたのでございます。

この問題については、国連を中心に対応の諸策が進められ、また、世界各国も協力しています。ただこの対応は、国連や国々の協力だけで十分な成果を上げ得るといふような簡単な問題ではありません。やはり世界人類に最大の影響力を持つ宗教界の協力が絶対必要であります。そこで世界平和のための行動機構として、私どもが結成いたしましたOBサミット、つまりインター・アクション・カウンシルは、一昨年三月ローマにおきまして、世界宗教界、とくにカソリックからは法皇庁の枢機卿ケーニツヒ氏が参加し、政界からは私、また西ドイツの元首相のシュミット氏など、宗教界、政界からおのおの六名が出席する会談を開催し、私が議長となりました。世界平和のための諸問題を討議いたしました。人口問題については、家族計画政策と、その手段に対する各宗教のアプローチの違いはありますが、指導者達は現在の動向から見て効果的な家族計画の追求は避けては通れないとの合意に達し、これを声明として発表したのであります。実に画期的なことであつたと思っております。

アジアは人口問題については、世界各地域に抜きん出て重要な地域です。世界人口の六割がアジアに集中しております。そのため、アジア各国は行政も立法府もこの問題については格段の努力をいたしております。中国における画期的な施策など、見るべき施策が国々において進められています。

我々アジアの国会議員は、一九八一年の北京宣言を受け、二〇〇〇年までにアジアの人口増加率を年間一%以内に抑えること、

母親と乳幼児の死亡率を低下させること、また社会経済開発に適した人口分布を達成すること、などを決議いたしておりますが、この主旨を含め、今回のこの会議におきましても、充分意見の交換を尽くされ、実りある成果を上げられることを切望してやみません。

大変ありがとうございました。

挨拶

世界平和と繁栄のために 人口政策プログラムの実施を

UNFPA事務局長

ナフィス・サディク

(UNFPA広報・外事局長ジョティ・シン代読)

福田先生、田中先生、佐藤先生、ミッタールさん、シャハニさん、オレタさん、モンソドさん、その外の皆さん、UNFPAのサディク事務局長になりかわりまして、今回ご出席の皆様方に対しご挨拶申し上げます。サディク事務局長はご存じのように、エイション・フォーラムに対しても多大な関心を寄せております。今回の会議は人口の問題に対する認識と理解を高めるものでございますが、サディク事務局長は今回先約がありますために、出席することができなくて大変残念だと申しております。しかし今回の会議の結論をぜひうかがいたいと、そして行動計画をうかがいたいと申しております。

八八年七月一日アジアでは、アジア人口三〇億人の日を記念いたしました。八八年の国連の予測によりますと、アジアの人口は昨年の一〇月一〇日ごろ三〇億人に達したと言われています。現在の五〇億の世界人口の六〇%がアジアに存在しているということになります。アジア全体の人口増加率はアフリカやラテンアメリカよりも低いものの、アジアはもとの人口の基盤が大きいため、アジアにおける人口総数は将来も急速に成長し続けるものと考えられます。アジアの人口は一年に五、四五〇万人、一ヶ月に四五四万人、一日一五万人の規模で増えています。現在の予測によりますと、二〇二五年までに四五億人に増加し、すなわち世界人口八二億人のうちの半分がアジアに住むということになります。

す。

人口増加率はアジアにおいても、また地域においても異っていません。東アジアでは相当下がってまいりましたし、東南アジアでも人口の伸びは鈍化しております。これらの地域では人口政策、人口プログラムが相当大きな成果を上げております。しかし、南アジア地域では、スリランカを除きましては、人口の伸び率は今なお非常に急速なものがございます。三〇億人というアジアの人口は、ある意味ではこれまで人類の大きな敵であった高死亡率、また飢餓に対し、人間が勝利を収めたことかもしれません。しかしながら、今後ともアジアに人口の増加があることは、経済成長を、また食糧の生産を高めなければならぬことを意味しております。アジアは何を成し得るか、そして将来何を成し得るかということの、ある意味で模範例とならねばなりません。

南アジア諸国においては、インドとパキスタンは国家的人口プログラムを一九五〇年代に実施しております。しかしあまり大きな成果を上げることができませんでした。現在、出生率を下げるためには、文盲率、とくに女性の文盲率を下げなければならぬと言われております。また基本的な保健サービスや家族計画をさらに強化する必要があると言われているとおりです。家族計画がうまく行っているところでは、女性は外で働き、そして女性が産児制限を行っております。そのような国では成功しております。ということは、多くの国においては、これまでの伝統的な文化を変えて行くというようなデリケートな仕事が必要だということなのです。

アジアの食糧状態は良くなっておりますが、まだまだなすべきことがございます。現在四億五〇〇〇万トンの米を作っております。これは一人当たり一五〇kgということになります。ということは、三五年間に米の生産は三倍になったということです。しか

し、アジアの米の生産量は、二〇〇〇年には五億五五〇〇万トン、二〇二五年には六億七、五〇〇万トンに増やさなければならぬと言われています。やはりエネルギー、そして肥料の生産が必要ですし、また集約農業が行われた場合、環境にどのような影響を及ぼすかも調べなければならぬと思います。

アジアの労働力人口は五〇年から八五年まで年率二%で成長しております。この成長率は今後とも続くと思われませんが、アジアの出生率が下がることによって労働力人口も減ってくるかもしれません。投資が必要でありましょう。とくに不振な農村地域での雇用創出が必要であります。農村経済を強化することが農村から都市への人口流入に歯止めをかけることにつながります。アジアの人口増加とその問題は、他の途上国と共通であります。もっとも大きな問題は、先進国では人口の増加は止まっているのにもかかわらず、アジア、アフリカ、ラテンアメリカでは人口が増えていくことであります。このような人口の不均衡は、環境そして国際的な貿易や平和に対して、大きな潜在的危険をもたらすと言えましょう。人口の増加率が天然資源の供給能力を追い越すような場合には、大きな問題が生じてきます。たとえば、木の乱伐により森林が死に絶える。このような環境的な変化も出てくるわけです。人口は増えても経済的には一向に上昇しないという問題が出てまいります。やはり仕事があれば、他の国に移住してしまうでしょう。失業、とくに若年層における失業が、社会的政治的な問題を引き起こし得ると思います。

平和なそして繁栄する世界にするためには、やはり人口の増加が世界的にバランスのとれたものにならないといけない。そしてそのためには、各国政府が経済政策、そして効果的な人口プログラムを導入することが必要です。この点において、アジアの国

会議員は大変大きな役割を果たしております。人口政策プログラムを作成するうえで、そして人口問題を開発に巻き込んでいくという大きな役割を持っております。選出された国会議員として、これらの計画プログラムを実施することが必要であります。また政府に対し、国民のニーズを伝えるという役割も持っております。すなわち人口と開発プログラムには国民のニーズが反映されていなければなりません。もちろん、政府やNGO、その他のメディアの努力により、人口問題が緊急を要するということが、多くの国民に認識されねばなりません。

しかし今なお、情報およびサービスを必要としている人に必要な情報と、実際に与えられる情報には格差があります。人口問題を実行するためには、一般の人達のニーズに合わせた情報を与えることが必要で、これに対して、国会議員は大きな役割を果たすことができるでしょう。私どもはこれまでアジア人口・開発協会（APDA）、人口と開発に関するアジア議員フォーラム（エイシャン・フォーラム）と協力してまいりました。

私どもUNFPAは、今年創設二〇周年を迎えておりますが、これからも、皆様の協力をお願いしたいと思っております。そして、人口と開発に対する認識を高めるためにも、多くの方々に協力をしていきたいと思っております。今回の第五回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議の成功をお祈りすると同時に、そして、将来プログラムが効果的に実施されますように期待しております。

ご静聴ありがとうございました。

基調講演

経済開発を遅らせる人口急増

―国會議員は立法で責任を―

フィリピン国家経済開発庁長官

ソリタ・C・モンソド

シャハニ上院議員、オレタ下院議員、フィリピンの人口と開発
国會議員委員会のメンバーの皆様、福田赳夫先生、マンゲンさん、
ミッタール事務総長、田中龍夫先生、ジョティ・シンさん、立法
府ならびに行政府の同僚の皆様、外交団の皆様、その他ご参会の
皆様、今日は第五回人口と開発に関するアジア国會議員代表者会
議に招かれて、お話をする機会をいただきましたことに感謝を申
し上げます。今回の会議を開催された方々に対し、開発と人口が
密接に関係しているということに光を当て、国民の生活水準向上
のためにはこの関係を認識しなければならぬという努力をされ
ておられることに対し、敬意を表します。

アジアでは各国が人口に関してそれぞれ違った問題を抱えてお
ります。それは人口動態と社会経済開発の度合が違うからにほか
なりません。フィリピンの人口問題は人口の急増ということであ
ります。ところが先進諸国においては、むしろ出生率が低下し過
ぎているという問題に直面しております。たとえば日本では、出
生率の低下による高齢化社会の問題があり、人口に占める中高年
の比率が高くなっております。八七年、日本では総人口に占める
六五歳以上人口は一一％ですが、他のアジア諸国では六五歳以上
の人口は五％以下であります。ですから、日本が直面している問
題は、この高齢者人口にどう対応するかといえます。そのほか貯

蓄とか、技術とか、労働力にも大きな影響が及ぼされます。出生率の低下については、シンガポールでも置き換え水準が七五年に達成されております。そのためシンガポールの人口政策は、教育水準の高い婦人がもっと子供を産むようにという政策に転換されてきております。

中国の出生率も近年は低下しておりますが、絶対数が大きいため、さらに出生率を低下させていかなければなりません。二〇〇〇年に総人口一二億人という目標を達成するためには、一人っ子政策を推進していかなくてはなりません。

マレーシアの出生率は現在二・二%ですが、七、〇〇〇万人の人口を扶養することは可能だということから、現在の一、六〇〇万人を七、〇〇〇万人にするというのが、マレーシアの人口政策でございます。

数例を申し上げましたけれども、人口と経済開発の段階が違う国においてはそれぞれ異なった人口政策がとられております。しかしその根本を見てもみますと、そこにある基本的な問題は、人口規模をどの時点でどれぐらいにすべきかということです。同時に、必要な資源と人口との関係の認識であります。生活水準を向上させるために必要な資源と人口とのバランスでございます。先進諸国の経験、たとえば西ヨーロッパの経験と第三世界の経験を対比してみたいと思います。たとえば西ヨーロッパの一八世紀、一九世紀には、人口が爆発的に伸びていたわけですが、それでも一・五%の増加率でしかありませんでした。しかし第三世界は、第二次大戦直後は三%の増加率で人口が伸びてきたわけです。

西ヨーロッパの人口転換は、経済の発展と医療の技術革新によって徐々に出生率の低下がもたらされました。その結果として非常に低い出生率が達成されたわけであり、そのために西ヨー

ロッパ諸国では経済社会の開発も進んだわけであります。ところが、アジアなど第三世界においては、死亡率の低下が短期間に達成されました。これは医療技術が西側から導入されたこともありませんが、しかし出生率の低下が伴わないために、死亡率の低下だけで人口が増えるという結果になっております。このように、西ヨーロッパと途上国では経験が違います。ですから先進諸国においては置換水準より出生率を多少に高める方に誘導する必要がありますし、第三世界においてはまだまだ出生率を低下しなければならぬと思います。

いずれにいたしましても、その社会にもっとも好ましいレベルの人口水準をいかに達成し持続させるかということが根本的な問題であります。

アジアの開発途上国にとり人口が大きな問題になっているのは、貧民層が大きいからに外なりません。それにも係わらず人口と開発との関係が正しく認識されていないのが現状であります。ほとんどのアジア諸国では、十分な資源とその供給さえできるならば、人口が増えてもそれを吸収することができ、生活水準も向上することができるはずなのであります。しかしその能力がない時に人口が急増すれば、社会開発の足を引っ掛ります。またそうであるならば、出生率を低下させなければなりません。

人口の急増とは、経済開発の速度も落ちるということにほかなりません。フィリピンでは毎年一三八万人が生まれます。一三八万人が増えるということは、ただでさえ少ない社会サービスの足を引っ掛ります。それは栄養、教育、保健の各分野で見られるわけであります。

毎年一三八万人が増えるということは、社会サービスに追われ、他の生産的な活動に投資をすることはできないということになり

ます。農業、工業の生産性を上昇させるための投資もできないということになります。引き続き人口が急増すれば、低栄養の現状、母子の死亡率の高さ、教育水準の低さという問題を放置し、高い出生率と貧困という悪循環を生むことになります。これは短期的には家族の生活水準を低下させ、長期的には人的資源の低下につながります。国民が心身とも健全であるということはその国の経済の活性化につながり、また国民の生活水準の向上につながるからであります。

人口急増が続けば労働力の質も低下し、国際競争力にも欠け、世界市場で競争することができなくなります。人口の急増は、生産年齢人口が増えるということにもなります。これはそれだけの数の雇用を創出しなければならぬということになります。すでに失業率も高く不完全雇用者も多い社会にとっては、非常に大きな重荷になります。完全雇用と賃金上昇を実現しながら雇用を創出していくということは、非常に難しいことであります。出生率を早急に低下させない限り、この失業と不完全雇用の問題は来世紀に入っても解決はできないと思われれます。

人口が引き続き急増するということは、天然資源と環境保護の問題の悪化でもあります。森林、海洋資源の枯渇、環境破壊もたらされるといふことになります。人口が増えれば、資源の利用が必要になるからであります。

人口急増は、非常に多くの開発問題をもたらします。所得配分の不均衡、失業問題、人的資源開発の遅れ、天然資源の乱開発と環境の悪化であります。しかしたんに人口の急増を遅らせるということだけでは問題の解決にはなりません。時間を稼ぐということだけにしかありません。制度を整備し、必要な政策を運用していかなければ、社会経済の目標は達成できません。

二一世紀において国が繁栄できるかどうかは、現在の状況、現在とられる行動で決まってしまう。途上国が自らの将来を明るいものにするためには、今こそ立法府と行政府が協力して積極的な行動を採択しなければなりません。では何ができるか。フィリピンのような国にとりましては、開発政策の中にその一環として出生率の低下政策を組み入れていかなければならないのです。出生率低下に関係する対策を、直接的、間接的に組み入れる必要があります。所得水準を高め、栄養水準を良くし、婦人のための雇用を創出していく必要があります。婦人の地位の向上は先進国、途上国を問わず重要な課題であります。

これらの諸目標を達成するためにも、子供の数を減らす必要があります。積極的な人口政策なくしては、今後何十年も人口が急増するということになってしまふからであります。それは生産年齢の女性が多いということからも指摘されることであります。周到に用意された人口政策を実行に移さなければなりません。そのためには世論の支持が必要であります。世論の支持を得た有効な人口政策を活用することができれば、短期間に出生率を低下させることができると思います。しかし各国でとられるこの人口政策は政治、経済、文化、社会を考慮しなければなりません。国民に近い立場におられます国会議員の諸先生方は、国民に受け入れやすい人口政策を策定することがおできになると思います。フィリピン憲法は、夫婦の権利として自由に子供の数を決めることが可能だと言っております。それは宗教と道徳的な観念を踏まえて家族の数を決めるのは夫婦の権利だと言うことであり、政府はそれに干渉することはできないのです。しかし、これはきちんと情報を与えられ、正確な知識に基づいた自由な意志の実行でなければなりません。そのために政府は医療施設を通して必要なデータや

情報の提供を行っております。

国会議員は立法を通じて責任を果たしていく必要があります。さらに立法のほかにも、選挙民に対し国会議員は啓蒙の責任があると思います。たんに家族だけの将来ではなく、社会、国全体の将来に関係があるということを啓蒙していく必要があります。国の実情に合わせて立法していくことは当然でありますけれども、リーダーである皆さん方の意志次第で国民の将来を明るくものにすることができるとあります。

ご静聴ありがとうございます。

特別講演

＝中国の人口＝

安定した平和で 繁栄するアジアを

A F P P D 副議長

胡 克 實

中国の国会を代表いたしました一言御礼を述べさせていただきます。第五回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議に出席することができ、大変うれしく思っております。また、フィリピンの政府、フィリピンの議会、フィリピンの国民に対して心からご挨拶を申し上げます。

時あたかも、国際情勢が変革に直面している時にこの会議は開催されました。対決から会話へ、緊張からデタントへと、平和と開発が現在の主流となっております。今なお緊張の種はございますし、また軍拡競争が終わったわけではございません。しかしながら少し明るい様相を示しております。平和と、そして公正な勢力が強化されて来ております。これらはアジア諸国にとってはプラスになると思います。とくに途上国には良いことだと思えます。

今こそアジア諸国が、その経済開発を促進する時が来たと思えます。平和共存の五原則がございます。これはアジアの国民の英知を集結したもので、この五原則が今や国際的な政治経済秩序の根幹を成すものとなっております。経済成長率は、アジアにおいては、世界的な水準から見ても相当高くなって来ております。ということとは、アジアの力とエネルギーは満ち溢れ、二一世紀にはさらに歴史的な発展を遂げるであろうことが期待されております。人口はアジアの開発において大きな問題であります。これまでに人口の急増を抑制するための諸策に進展は見られております。

れども、しかしながらその開発は均衡のとれたものではありませぬ。多くの諸国は、ふたたびベビーブームの時代を迎えようとしております。いろいろな問題が、人口の急増があるがゆえに起きております。またこの問題はさらに緊急度を増して来ております。今こそ人口と開発について討議をする時だと思えます。

この一〇年間、中国の経済力は大幅に伸長しました。これは経済改革の政策、そして門戸開放政策をとったからであります。GNPの成長率は、七九年には九・七％でありましたが、今なお高くなってきております。生活水準も相当高くなってまいりました。しかしながら、もともと人口規模が大きかったため、一人当たりの所得はあまり上昇しておりません。七八年には家族計画が促進されました。すなわち、過去一〇年間に一億人の出生があったわけですが、八五年には出生率は人口一、〇〇〇人当たり一七・八人という数字にまで減少してまいりました。八六年以降中国は、新しいベビーブームが始まっております。我が国の人口は、一九五五年まで年間一、四〇〇から一、五〇〇万まで増えるでしょう。耕作地は、毎年三〇万から四〇万ヘクタール減ってきております。また穀物の年間の消費量は増えていきます。平均して一〇〇億キログラム増えております。したがって、人口と資源の格差は今なお存在しているわけでありませぬ。

中国は家族計画推進の政策を今後とも追求していかねばなりません。そして、人口の量を管理し、質を高めていきたいと考えております。人口増加率が、社会経済的な発展とペースを合わせていかなければならないわけであり、また生態学的な環境も維持しなければなりません。

経済開発と人口計画の目標は、八〇年のGNPをさらに倍にすることであり、二〇〇〇年までに人口のサイズを一二億にするこ

とであり、そしてまた、一般国民の生活水準をさらに高くすることとあります。一人当たりのGNPは、次世紀にかけては中進国のレベルにしたいと考えており、また我が国を近代化させたいと考えております。総人口は一五億ぐらいにおさえることができるでしょう。したがって、私どもが現在の目標を達成するためには、人口政策を行い、そして過去の経験に学び、将来を是正していかなばなりません。

皆さん、アジアは人口問題、または社会経済の発展という点で、世界に大きく貢献することができはるはずで、中国の全人代は、他の国の国会議員と協力をしていきたいと思っております。そして、安定した平和な、そして繁栄するアジアを作っていきたいと考えております。

ありがとうございます。

研究発表

中国—人口・開発に関する

基礎調査

日本大学人口研究所名誉所長

黒田俊夫



人口に関しては、理論的・実践的な問題がたくさんございますが、私は今朝、モンソド長官から基調演説をうかがわせていただきました。人口問題に関する非常に包括的な、理論的な内容でした。またモンソド国家経済開発庁長官のお話の中には、経済開発と近代化と、そして人口との関連についてのお話がありました。私もこのような観点から、いくつかの研究を発表させていただきたいと思えます。

中国における研究でございます。これまでAPDAは、人口と開発に関する問題に関してアジア諸国と共同研究を行ってまいりました。インド、タイ、インドネシア、中国、ネパール、その他の国でございます。そして昨年、私どもは中国で、国家計画生育委員会と地域の計画生育委員会との協力により、人口抑制が、とくに出生抑制がどの程度行われているだろうかという調査を行うことができました。出生率を抑制するためにどのような手段がとられたのだろうかということが、私どもの研究の目的でございます。皆様のお手元にはすでに出版された研究成果が本となって配布されております。中華人民共和国における人口と開発の基礎

調査について、皆様方にぜひお読みいただきたいと思ひます。家族計画の政策、その他関連する経済、社会的な要素についての研究成果が出ております。

ご案内と思ひますが、近代化と人口転換に関しては二つの理論がございます。学派といったらよいでしょうか。一つは家族計画学派というもので、家族計画政策が大変大きな役割を果たすと主張している学派でございます。もう一つの学派は、経済開発がもっと重要である、すなわち人口の出生率を抑制するためには経済開発の方が重要であると主張する学派でございます。この人口と開発に関しては、この二つの学派がケンケンガクガクの討議を戦わせてまいりました。しかし、私といたしましては、もしかしたらもっと効果的な政策は、家族計画派と経済開発派の中間にあるのではないかと、すなわち近代化と経済開発も出生を抑制するためには、非常に重要であろうと考えております。中間がいいのではないかと考えているわけです。また、家族計画を行うことによつて出生率を抑制することもできるでしょう。しかし、人口学者は必ずしも家族計画の政策には同意いたしておりません。しかし最近になってようやく、より効果的、より妥当な政策を家族計画に適應すれば、家族計画も有効であろうという結論が出るようになっております。

昨年、私どもは四川省で共同研究を行うことができました。四川省の家族計画委員会と協力して、調査を行ったのであります。私に与えられた時間が大変限られておりますので、中国における経過についてあまり詳しくは申し上げません。本を読んでいただければよくわかることだと思ひます。どのような形で家族計画を効果的に実施しているかという実践的、理論的な問題の中核だけをお話したいと思ひます。

四川省は非常に大きな省で、面積は日本の国土面積の一・五倍もあります。人口は一億を超えております。これは日本の総人口とほぼ匹敵すると言ったらよろしいでしょう。我々にとっては四川省の現実を知ることが、大変に関心のあるところでございました。そういうわけで比較研究を行ってみました。四川省と社会経済開発で大変似ていると思われる江蘇省また吉林省・遼寧省の間でやってみたわけです。

出生率および社会経済的な指標を示したものが、お手元にお配りしている英文報告書の一四ページです。東北部にある吉林省と遼寧省を比較研究の対象した理由でございますが、四川省ともう一つの江蘇省は、社会経済的な開発から言うに遅れている所があるということでした。たとえば、第一次産業に従事する人の数が非常に多いし、都市化が非常に遅れている、文盲率が高い。しかしながら、このような後進性がある一方で、出生率は非常に抑制されているということで、英文報告書の一四ページを見ていただきますと、江蘇省と四川省における第一次産業に従事する人の数は、四川省では七四％、江蘇省では六六％となっております。都市化率は四川省は一四％、江蘇省では一六％、文盲率は四川省で三二％、江蘇省で三四％と、両方とも後進性が高いわけです。いっぽう都市化率と文盲率などにおいては、吉林省の方は非常に進んでおります。吉林省では第一次産業に従事する数は四六％と非常に低く、また都市化率も吉林省では四〇％となっております。また文盲率も非常に低くなっており、吉林省二一％、それから遼寧省が一六％というぐあい、四川省と江蘇省は後進性がある。以上のことから、都市化率などはたとえ遅れていても、もしかしら出生率を抑制することが可能なのではないかというふうに考えられたわけです。

またこの四川と江蘇の二つの省はもしかしたら機関車の役割を果たすことができるのではないか、ほかの省に率先して、出生率抑制という列車を引っ張って行くことができるのではないかと思っただけです。

とくに四川省は、非常に人口が大きい、また土地も広いということが言えます。また人口分布が非常に不均衡です。こういった状況を考えますと、四川省の地方の計画生育委員会が独自の家族計画政策を打ち立て、非常に積極的に押し進めてきたということが言えると思います。当初私は、中国においては、全国どの省も中央政府の政策に基づいた画一的な取組をしているのではないかと思っていました。しかし、それぞれ地域ごと、地方ごとの出生率の低下には差が見られます。地方政府がほとんど同じような政策を取りながら、出生率には非常に差が出て来ているという現実がございます。したがって、私の考えは、どうすれば家族計画のプログラムを効果的に行うことができるのか、そしてどうすれば効果的に実施することができるのかということにあります。

やはり家族計画政策も、それぞれの地方政府ごとに政策を独自に設定する必要があるのではないのでしょうか。努力とか、どの程度強く押し進めて行くかということ、それぞれの地方政府、それぞれの地域ごとに異なってもかまわないのではないかと思うわけです。ですから四川省の家族計画政策を計画生育委員会の人たちと検討したあと、私は一つの結論を見出したわけです。やはり家族計画に対する教育、あるいは広報活動が必要であるということであり、四川省で家族計画が成功したという裏には、一つには分類化された指導要項を設定したということが挙げられます。つまり、具体的な家族計画プログラムを打ち出していたと、そして地方ごと、地域ごとに社会経済的な要因を考えながら設定

したと、また自然状況等も考慮して実行プログラムを打ち出していったということです。したがって、同じ四川省の中でも、さらに細かく地域が分かれるということであり、その中でさまざまに異なった家族計画の方法が問えるということです。それは非常に興味深いことです。

報告書の四三ページをご覧くださいと思います。四川省で実行されている避妊方法は、四三％がIUD、三八％が男性不妊手術、一一％が女性不妊手術、コンドームとピルが七・二八％、その他が〇・七八％となっております。これは四川省全体の数字です。ただ大きな工場等では、若い女性がかかり働いており、ここでは避妊方法としてコンドームがほとんどを占めておりました。つまり、シフト労働で八時間働かなくてはなりません。八時間立ったままです。その場合IUDは使えないということになります。工場長がIUDではなくコンドームがいいということを推薦し、コンドームが使われているということでした。

したがって、いろいろ違った方法が、それぞれの状況、条件にあった形で進められていくべきであり、それぞれの独自性を考慮して避妊方法を考えればよいということになります。また、家族計画の組織に関しても、垂直的および水平的な分類ができるかと思えます。

四川省に関しては、垂直的な面では、地方政府のトップからずっと下へという垂直的な流れになります。同時に、家族計画の組織だけではなく、その他の関連機関とも非常に密接な水平関係があるということが、興味深いこととして指摘できるかと思えます。

では、報告書の五〇ページをご覧くださいでしょうか。八一年から八五年の出生率と自然増加率が示されているかと思えます。それによりますと、地方より都市の方が出生率が高くなって

おります。これはどの国でも一般的な状況かと思いますが、中国でも、とくに四川省においても言えるわけです。

文化大革命の時に若い人たちが都市から地方に送られました。これら都市から地方に下放された人々は、一〇年たつてまた都市に戻つて来たわけです。そのため都市のほうが生産率が若干高くなっているわけです。

また報告書の一四ページに戻りますと、遼寧省と吉林省は工業化がかなり進んでおり、また四川省や江蘇省に比べて文盲率も低くなっています。しかし出生率では、四川省は八〇年に一一・九‰という、非常に低い数字を示しております。つまり、遼寧省と吉林省のほうがずっと進んでいるにもかかわらず、四川省のほうが生産率は一九八〇年においては低いという結果になっております。

その後、こういったところの出生率は非常に地域的に落ち込んできたわけです。出生率を見てみますと、遼寧省、吉林省などは八五年にはずいぶん落ち込み、また江蘇省も落ち込んできました。ただ、四川省の数字は非常に上がってきているため、平均値としてはほとんど変わらない、あるいは若干上がっているような結果になっているわけです。つまり、八五年には遼寧、吉林、江蘇省の出生率は下がっていますが、四川省のみは上がって来ています。

もう一度確認したいことは、家族計画学派という人たちの意見です。社会経済的な条件が異なっているとしても、やはり家族計画によって出生率を下げることは可能だということだと思います。もちろん経済発展が役に立たないというわけではありません。もちろん、経済発展も重要です。シンガポールでも、韓国でも、経済発展によって家族計画が押し進められた国だと思えます。やはり経済の近代化が家族計画を助けたという状況にあると思えます。そして出生

率が下がってきたわけです。これはシンガポールでも韓国でも同じ状況だと思えます。シンガポールの場合には出生率の低下は非常に早かったのですが、韓国の場合にはつい最近になって下がってきました。韓国の家族計画プログラムは非常に強力で、かつ強く押し進めたにもかかわらず、出生率の低下はそれほど早くは生じなかったわけです。韓国の経済発展、工業化、都市化、そういったものが社会経済的な発展要因として、家族計画政策を効果的に押し進める役目を果たしたのだと思えます。昨年、粗出生率が一七%あるいは一八%だったと思えます。粗出生率を二〇%以下にするのには非常に時間がかかりましたが、やっとこれを実現したわけです。これはやはり韓国の場合には、経済発展が大きな役割を果たしたと思えます。

ですから、家族計画と経済発展とは、双方を関連して考えなくてはならないものではありませんが、経済発展が出生率の問題を後退することもあり得るということです。

ご静聴、ありがとうございました。

特別講演

人口と食糧

主要食糧は自給体制の確立で

—人口と食糧の解決なくして繁栄も平和もなし—

A F P P D 議長

佐 藤 隆



ご列席の皆様、しばらくでございます。

旧知の同志の皆様には大変御無沙汰をいたしておりましたが、昨年暮れ、四一七日間にわたる農林水産大臣の職を辞し、ようやくエイシャン・フォーラムに帰ってまいりました。この間、

胡克實副議長、ミッタール事務総長、ラーマ・オスマン副事務総長はじめ皆様に、大変にご迷惑をおかけいたしました。心から感謝を申し上げたいと思います。

農林水産大臣在任中は、日本が直面しております日本とアメリカの農産物貿易問題の解決を始め、数多くの懸案処理のため、苦難に満ちた日々を悪戦苦闘してまいりましたが、多忙なさなかにあっても、いつも私のライフワークである「人口・開発」問題が私の脳裏から離れたことはありませんでした。職を辞めてから日本の国内では、佐藤隆はアメリカと随分やり合ったなど、アメリカンビーフの角はとれたかなということ、興味深く私の話を聞こうとする人も多くあります。しかし交渉の内容を私は今日はお話しするつもりではございません。お互いが人口と食糧というこ

とについて、共通の認識を持ちたいという願望を申し上げたいの
でございます。

さかのぼりますが、昨年七月の「アジア人口三〇億人の日」に
は、事の重大性から、私は大臣職にありましたが、A F P P D 議
長として、U N F P A の協力を得て、東京で全世界に向け、この
事実をアピールし、大きな反響を呼び起こすことができました。

本日まで参加の国々におかれましても、独自の立場から行動を起
こされ、十分な成果をあげられたことも承知いたしております。
ここに改めて皆様のご協力に感謝いたします。

さて、皆様と共に敬愛してやまなかつた故ラフェアル・サラス
氏のお国で、A P D A の第五回人口と開発に関するアジア国会議
員代表者会議を開催できますことは、意義深い、感慨深いこと
であります。

とくに長きにわたり、人口と開発に関心をもって来られた、我
々のリーダー、サディック女史がサラス氏の後任として、多くの
国々から高い評価を得ておられることはご同慶にたえません。

この際改めて、私はA F P P D の議長として、人口問題解決の
ために横たわる食糧、環境、そして資源のアンバランス、経済発
展過程における人口の地域構造、高齢化問題等に、さらに皆様と
ともに情熱を傾けて取り組むこととお誓いしたいと思っております。
私は農林水産大臣在任中に、世界人口にかかわる問題点の中
で、数多くの経験と教訓を得ました。それぞれの国民が、最も大
きな関心をいただいている人類の生存にかかわる食糧問題について
の、私が集約した認識を端的に申し上げたいと思います。それが
今日、私がお話をしようとするポイントでございます。

まず主要食糧は可能な限り、それぞれの国において生産し、消
費されるという自給体制を確立し、足らざるところを安定的な輸

入によって安定供給するという大原則を確立すべきであると考えます。このことは、食糧の輸出国であっても、輸入国であっても、また先進国、ニーズ（NIE S）、途上国であれ、共通の食糧政策として安全保障の観点からも、共通の認識を持つ必要があります。余り物を飢餓に苦しむ国に与えるという考え方は誤りであり、常に気象条件によっておびやかされる第一次産業こそ、備蓄問題も含めた共通の認識が必要です。

私は、今申し上げたような考え方を一九八六年の米国ジョージワシントン大学とカーネギー財団の共催による日米農業政策促進会議、あるいは一九八七年の第二回北京会議でのスピーチを始め、いろいろな機会に主張してまいりました。何はともあれ、人口と食糧の解決なくしては、人類の繁栄も世界平和もあり得ないと確信しております。

世界人口の六割を占めるアジアの国々で、この問題に対する認識を浸透させ、ご列席の皆様一人一人が、的確なアクションを取り下さるようお願いいたします。

私は今、新たな使命感に燃えております。同志の皆様の変わらざる温かい友情がいっそう、私の心を勇気づけてくれるからです。

この会議終了後の一九日午前、AFPFDの運営委員会を行い九月にインドで開く予定の婦人会議と、AFPFD活動の長期計画について話し合うことになっております。

本会議にご尽力下さいましたフィリピン国の皆様、ご出席の皆様、重ねて感謝申し上げます、人口と食糧の政治家としての一つの判断、哲学と云っては言い過ぎかもしれませんが、信ずるところを申し上げます、私のお話といたします。

ありがとうございました。

バランスのとれた発展のため 過密・過疎の解決が課題

衆議院議員（自民）

武 村 正 義



人口と環境の問題について少しコメントをさせていただきま
す。日本の事情と地球規模の視
点の二つであります。

私は長年地方行政にもたずさ
わっておりましたが、今日まで
もっぱら環境問題に関心を抱い
てまいりました。三年前、日本
でも地球規模の環境問題の議員組織が誕生しました。こちらも私
どもがとくにご願ひして、福田赳夫先生に会長を勤めていただい
ております。ですから福田先生は人口と環境の二つの問題で今ご
苦労をいただいているわけです。

環境問題に、とくに地球規模の環境問題に関心を持てば持つほ
ど人口問題という大きな壁にぶつかってしまいます。その意味で
今回はこの会合に出席をさせていただきました。ぜひこれから、
環境と人口という二つのテーマに関心をもちながら努力をしてい
きたいと思ひます。

さて日本は、国土面積はわずか三七万八〇〇〇km²であります。
地球全体の陸地の面積から考えますと、わずか〇・三％に過ぎま
せん。人口は一億二二〇〇万、地球の五〇億の人口に対して二・
四％であります。このことだけでも、日本はすでに世界の平均よ

りはかなり人口密度の高い国であります。人口の国土や自然に対するプレッシャーはかなり高いと見なければなりません。そこへ活発な経済活動が展開されており、世界全体のGNPの一割を起す規模になっているだけに、国土への人口のプレッシャーは一層大きくのしかかっていると云えます。

さらに問題は、この狭い日本の中での人口移動です。第二次世界大戦後の四〇年間に大規模な移動が起りました。いわゆる農山村社会から大都市への、主として若者を中心とした人口の移動であります。大都市ではどんどん人が増え農山村では人が減ってきております。大都市では住宅の不足や、交通ラッシュ、あるいは地価の高騰、そして廃棄物の処理、水の汚濁等々様々な公害問題が生まれておりますし、農山村地域では若者が流出をしていったために、人口の高齢化が急速に進んでしまいました。働き場所のない、後継者のいない、活力のない地域社会に変わろうとしているわけがあります。日本の国におけるこの社会経済的な二つの構造、この矛盾が、国内的にはもっとも大きな人口問題であると言えらると思えます。どうやって大都市と地方のバランスを取っていくか、国全体の均衡のある発展をどうやって図っていくか、あるいは大都市の過密問題と地方の過疎問題をどう解決していくか。これが一貫して歴代内閣の最大の課題でありますし、現在も竹下総理大臣はふるさと創成というスローガンを掲げてこの問題にチャレンジをいたしているところであります。

私は展望はそう明るくはないと思っておりますが、あらゆる努力をこれから進めていかなければならないと思っております。

さて私は、昨年の一〇月にバンングラディッシュを訪問いたしました。今回は残念ながらバンングラディッシュの代表はお見えになっていませんが、ちょうどあの水害の起こった直後でありました。国

土の四分の三が洪水の被害を受けただけであります。しかし私はバングラディッシュを訪問したのは初めてであります。意外とバングラディッシュの皆さんの表情が明るいので、ホッとしました。そして、なぜ水害が起こるのか、しかもなぜ年々その水害が大きくなってきているのか、その話を聞きました時に、バングラディッシュの上流のネパール、ブータン、あるいはチベットの一部、あるいは北部インド、そういう地域の人口の問題と緑の問題と下流のバングラディッシュの水害との間に大きな因果関係があるということがわかりました。

バングラディッシュの大臣からは、ネパールの人口は増加をしております、その結果ここ一〇数年間でネパールの緑が半分ぐらい減ったんじゃないかという説明がありました。エネルギーのために木を切る。そのことによって緑が減る。同じように雨が降っても、水量はどんどん増えていく。しかも一気に下流を襲うということで、ガンジス川やプロマブトラ川の水の問題が国境を超えて、この地域数ヶ国の環境の問題と深く係わっているということを教えられたのであります。

現在世界の人口は五〇億を超えました。そういう中で、熱帯雨林だけを例に取り上げても、ご承知のように一年間に一一三〇万haの緑が着実にこの地上から姿を消していております。そして年間六〇〇万haがこれまた着実に砂漠に姿を変えていっているわけです。そこには人口の増加があり、あるいは焼畑農業があり、あるいは薪炭への需要の高まりがあり、さらに木材需要の問題が存在しております。そのことが間違はなくバングラディッシュの水害に代表されますように、さまざまな地球上の環境破壊を起こしているわけです。冒頭申し上げましたように、地球の環境を守るためにこそ、人口問題に真剣に取り組まなければ

ばならないというふうを考えるわけがあります。

問題は複合的でありますし、双方に因果関係がございますから、やはり総合的に対策を立てていく必要があると思います。

人口の安定化と環境の保全を図り、環境と開発に関する世界委員会が提唱いたしましたように持続可能な発展を世界で実現していくことが大事ではないか。日本はその意味で、この分野への積極的な貢献を果たしていくべきではないかというふうに思っております。

福田赳夫先生の助言によりまして、日本政府はこの秋に初めて地球の環境保全に関する世界会議を東京で開くことになっております。この会議にも是非ご関心を賜りたいと思いますし、この会議も含めて、世界の人口問題、同時に環境問題への取り組みが一層深まっていくことを期待する次第であります。

最後に一つ一つの国の国民が、自らの国への愛と責任をどう果たしていくか、五〇億の人類がこのかけがえのない地球への愛と責任をどう果たしていくか、地球社会の未来はこの一点にかかっていると思います。

ありがとうございます。

マニラ会議を顧みて

(財) アジア人口・開発協会

参与・事務局長 広瀬次雄



会議の様を報じたフィリピン各紙の記事

任期の折返し点、一、〇〇〇日を乗り切ったアキノ政権は、いまなお権力基盤が脆弱なため、不安定要因は完全に解消されていないものの、徐々に安定化の方向へ向かっている——というのが現地での一致した見方だった。

しかし、一皮むけば、そこには共産ゲリラや国軍内部の不満分子など反政府勢力や、低い所得水準、高い失業率、ふくれ上がる累積債務問題、農地改革実施など早急に解決しなければならぬ難問が山積していた。

とりわけ頭の痛いのが、五、七〇〇万人とも五、八〇〇万人ともいわれる人口が政府の社会経済計画の前に大きく立ちはだかっ

ている現実である。フィリピンでは一世帯当りの子供の数が五人以上というのが大半である。二五〇万人以上の失業者と、七〇〇万人の不完全雇用者が国じゅうの至る所に溢れ、ここ一、二年の間にフィリピンの人口はさらに確実に増え六、〇〇〇万人を突破する勢いにある。

政府が、増え続ける同国の人口をそのまま放置すれば、社会経済計画は破たんし、深刻な貧困と失業問題がアキノ政権を痛打するであろうことは想像にかたくない。

加えて——同国々民の八五%が、人工的避妊を受入れない宗教心の強いカトリック信者である。

人口問題解決のためにこの宗教上の「タブー」をいかに乗り越えていくか。フィリピン・アキノ政権が背負った十字架でもある。

このような国情の下で開いたAPDA会議は、画期的かつタイムリーな意義を持つものであった。

関心集めた中国、フィリピン報告 マレーシアは現状の四・四倍の人口増を計画

カントリーレポートで、とりわけ関心を集めたのは人口大国の中国と、宗教上のタブーを抱えるフィリピンであった。

マレーシアのように、現在一、六〇〇万人の人口をさらに七、〇〇〇万人にまで拡大しようという国もあったが、これは別格である。同国のダトー・ザイナル・ザイン議員によれば、マレーシアは経済開発を進めるために、より多くの人的資源を必要とし、人口は人的資源であり、人的資源と市場規模があつてこそ生産性も上がるし、天然資源の開発も可能である、というのがその根拠だった。

中国：二一世紀半ばに人口転換を完了

中国の查瑞伝・全人代常務委員は、これから中国の人口問題が持つ新たな特色として①高令者が急増②二一世紀前半には中国の歴史上かつてない労働力が確保できる③大都市人口の抑制と、中小都市発展の環境づくり④環境問題、資源不足、をあげ、中国は二一世紀の中頃までには人口転換を完了できるのではないかと予測した。②を除いては、現在の日本とよく類似した道を通ろうとしている点が興味深い。

人口計画、経済政策の両方で過ち

査議員のレポートをめぐり、インドの議員が『中国では過去四〇年間、いろいろな間違いがあったそうだが、それは人口プログラムの過ちなのか、経済政策の過ちだったのか』と質問した。これに対し査議員は素直に『私共は両方の分野で過ちを犯したと思っています。とくに人口増加は、もっと早く五〇年代頃に出生率を抑えなくてはならないということを確認しておくべきだった』と答えた。

農村部では二人目の出産も許可

さらに査議員は発展途上国への警告として、『家族計画は、導入当初は出生率が大幅に減るが、努力して続けないと問題解決にはならない。

それに伝統的な国民の態度は、何十年もかからないと変化しないものだ』『一人っ子政策は、北京、上海、天津その他の大都市部では積極的な対応が得られたが、農村部では別の問題がある。農村部では女性は労働力にはならないということで、二人目の出

産も許可している』と家族計画の難しさを述べ、例外措置を認めていることを明らかにした。

査議員の卒直な発表に対しインドのミッター上院議員、日本の佐藤隆議員がとくに発言を求め、中国の態度に賛辞を贈っていた。

フィリピン：動き出した議会

「宗教と人口」という難問を抱えるフィリピンは、ゲリー・テブス下院議員が発表し、フィリピン議会が今後の課題、行動計画として、次の決議を採択するよう政府に呼びかけることを明らかにした。

内容は①大統領に対し、人口政策を明快に打ち出し、小家族を承認し、責任ある家族計画を採択する。②人口委員会を強化し、宗教団体、非政府機関と密接に協力しながら、有効で、社会的に受け入れられるような政策、施策を導入し、人口増を低下させる。同時に大統領に、人口関連の活動を取上げている非政府機関を支援するよう呼びかける。③地方自治体に歳入の一部を人口対策予算として組むよう呼びかける。④大統領に対し、国の統計局を通じて、家族計画、人口政策に関連する正確な情報収集を求める――などが、主なものである。

宗教のカベは、自然な受胎調節で：

テブス議員に対し、日本の武村正義議員が『カトリック信者の多いフィリピンで、人口政策と宗教の問題をどのようにするのか』と質問した。テブス議員は『人工的な避妊は道義的にも受け入れられない。そこで、私どもは国民に対し、自然な受胎調節ができること、夫婦の自由意志や選択に基づいた社会的に受け入れられた人

工的避妊の方法もあることを知らせようとしている。この自然な受胎調節は教会の許すところである』と答えた。自然の方法であれ、人工の方法であれ、フィリピン議会は、国民に人口は解決しなければならぬ問題だ、ということの認識を植えつけようとしている、と述べた。

さらに、今後の見通しとして、『教会や宗教界の方々はかなり硬直した態度をとっていることに、あまり力を落していない。この大事な人口問題については、宗教界と協力できると思っているからだ』と積極的にこの問題と取組んでいく力強い姿勢を示した。

婦人の地位向上と教育の重要性も

このほか、今回の会議では中国のほかにもインドや韓国からも二世紀に入ると高令化現象が起きることが指摘された。また、農村から都市への人口流入に伴って発生する環境汚染、食糧資源問題に対する適切な対策が必要となったことが強調された。

家族計画の効果をあげるためには、婦人の地位の向上と、教育の重要性も改めて取り上げられていた。

人口問題の解決は人類愛で……

「人口問題」とは、現代に生きる人類が抱える「業」なのである。どうか。

僅か二日間の短かいマニラ会議ではあったが、そこでは、いままなお深刻な貧困と高い出生率、高い乳児の死亡率、低い農業の生産性に悩むアジアの国々の悲しい姿が浮き彫りにされていた。一方、迫りくる高令化社会への不安を訴える国もふえてきた。

いま地球規模で問題化している砂漠化、大気汚染、酸性雨、異常気象など、さまざまな環境破壊による憂慮すべき事態も、突き

詰めればこの「人口問題」と決して無縁ではない。

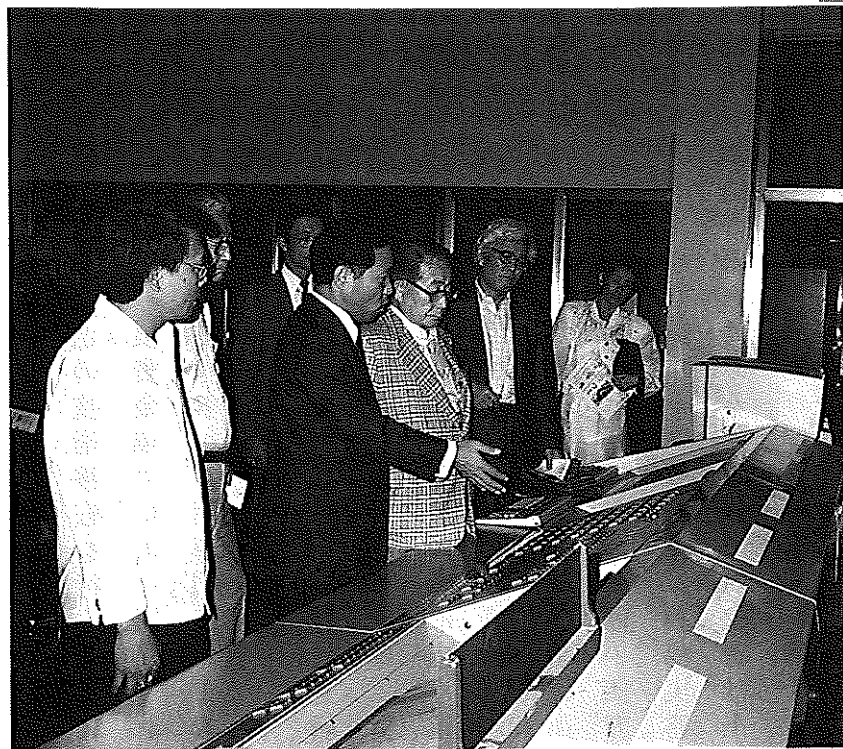
しかし、こんどの会議には、救いがあった。各国が文化、思想、宗教、政治、経済の相違を素直に乗り越え、人類の平和と安全、繁栄のために相携えて、この問題を解決していこう、という意気込みが、中国やフィリピンの発言にみられるように、力強く感じられたからだ。

確かに、人口問題には、一つの問題解決が新たな問題を生む――という宿命がある。

この問題の取組みについて『アジアを救い、世界平和を達成するため、われわれ議員はさらに各国間の連絡を密にし、頻繁に情報を交換し、それぞれの国の社会経済開発に適した人口調整を急ぐのではないか』と、切々と呼びかけ、会議を締めくくった田中龍夫APDA理事長の挨拶に、会場から大きな拍手が波打った。

人口問題が、選挙の「得票」に役立たないという現状下での、人類愛に深く根ざす発言だけに印象的だった。

フィリピン経済協力の一部を視察して



日本の円借款で設置されたマニラ首都圏交通制御を視察する田中龍夫団長、関山信之議員一行

二月十九日、二日間にわたる会議日程を終えた日本議員団は、フィリピンにおける経済協力援助の様子を実際に見るべく視察を行った。田中団長、関山議員他、六名の視察団一行はまず、一九八二年に三八億六千万円の円借款により、マニラ首都圏の交通混雑を緩和するために設置されたマニラ首都圏交通制御センターに向った。

一階のコントロールルーム正面に、マニラ首都圏の大きな道路地図がある。地図上には赤や黄色の豆電球がつき、信号機の設置場所を示している。各信号機には監視装置が装填され、道路の状況が刻々と隣のコンピュータールームに送られている。道路地図

の両脇には十四のテレビがあり、主要な箇所は道路状況をテレビモニターを見ながら判断し、指令を出したり、運転者の注意を促すための掲示板への指示を出している。緊急自動車の通行のために信号の統一指令をする装置もある。

このセンターができたおかげで、マニラ市内の交通事故による死傷者がかなり減ったとのことである。

次の視察地である貿易研修センターは一九八八年に完成した、白い鉄筋コンクリート三階建ての近代的ビルである。ティロナ所長、松本リーダー、そして宮本JICA所長の出迎えを受ける。この貿易研修センターは、フィリピンの貿易振興のために貿易実務に精通した人材の養成、主要輸産品の品質向上に係る検査技術の指導及び展示方法などの技術移転を行うために、一九八六年度二四億三千二百万円無償資金協力により開設された。一九八七年二月より五年間の予定で八名の長期専門家が日本から派遣され、技術協力を実施中である。

現在の主な活動の内容は、まず、輸出試験検査研修がある。フィリピンは規格の無い国であるため、特に繊維、食品、家具等について実験を行い規格の必要性を政府民間に広く啓蒙するための研修を行っている。次に日本等の輸出相手国の状況に合わせた基準を作るための展示研修がある。自国の商品を輸出する際、相手国の状況（季節等）に合わせた展示会の開催の仕方等のテクニクやマネージメントを研修する。そして、貿易実務のためのコースと商業用日本語の研修である。研修の対象者は主に中小企業の経営者や労働者である。研修期間は一週間から十日くらいで、昨年の受講者は一九八八人で、将来は二千六百人くらいには増やしたいとのことである。

田中団長の、フィリピン人の国民性と苦勞している点は、とい



海外青年協力隊との懇談会で挨拶する田中龍夫APDA理事長

交換のあと、繊維、木工等の各実験室、輸出入の展示品等を参観する。視察を終えた一行は青年海外協力隊との懇談会場に向う。宮本JICA所長、松本リーダーをはじめ八名の協力隊の方々と昼食を共にしながらの懇談会である。田中団長の「不便な所で御活躍さ

う質問に対して、松本リーダーは、規格の必要性を理解してもらえないことの苦労話を披露される。品質管理の必要性を説く目的のもと、日本の製品とフィリピンの製品を比較するために、実験用として街から椅子を購入し、圧力を加えて椅子の強度を図る実験を行っている。日本製は四千回の圧力を加えても壊れないが、フィリピン製では一千回を越すものはほとんど無い。そして実験結果そのものよりも、何故新しいものを買ってきてすぐ壊すのかと非難されてしまうそうだ。

これは、車検制度が無いこの国で、車の整備を説いても、何故車を整備しなければならぬのか理解してもらえないということにもつながる。そういうことの繰り返しで、民族性の違い、時間の観念の相違を痛感しているとのことである。ただ教育程度が高いので人材活用をうまく行えば、この国の今後期待できるのではないかとのこと。

また市場に関する調査が不足しているため、調査の方法等について日本の協力の必要性を感じている、といわれる。活発な意見

れている皆さんにお目にかかり、お話しを伺う機会をととも楽しみにして参りました。先日ネパールを訪問した際にも、皆さんと同じように奥地で活躍されておられる協力隊の方々にお話を伺い、涙のにじむ思いをいたしました。日本と現地の心のかけ橋として第一線で活躍されておられる皆さんに、お礼申しあげたい。お体を大切になさって、頑張ってください。」とのご挨拶があり、懇談に入る。

私のテーブルのバターのフィリピン難民センターで活躍している看護婦の永尾さん、貧民街で母親に洋裁を教えているという木谷さんらに貧民街の子供達の話しを聞く。子供の病気の多くは、せき、結核、赤痢、下痢が多く、乳幼児死亡の最大の原因も急性気管支炎、肺炎、下痢性疾患が多いとのこと。永尾さんとの会話の中で特に印象に残ったのは、子供達が、病気の原因も治療の方法もわかっていのに、機材や薬がないために目の前でだんだん弱り、冷たくなっていくのをだまって見ていなければならないのが辛いという話である。

運良く治療を受け、薬を貰って治っても、根本的な問題である生活環境を変えなければ病気を絶つことはできない。どこの国でも貧困の犠牲になるのはまず子供である。

現実に直面していなければわからない貴重な体験に、彼らの苦勞と現地のなまの生活状況の一端をかいま見ることができた。

時間を大巾に超えての懇談であった。

日曜日にも係らず、熱心に説明をして下さった皆様、貴重な休日を返上しマニラにかけて下さった協力隊の方々、心より感謝申し上げます。

(APDA事務局 桜井久美子)

1月6日

「ペルー共和国人口・家族計画基礎調査」役務提供契約を国際協力事業団と締結。

1月10日

「ペルー共和国人口・家族計画基礎調査」調査団をペルー共和国に派遣。(団員 西川由比子、田中高)

2月3日

2月17日
19日

「第五回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」(主催 APDA 及び人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会)開催。於フィリピン国マニラ、PICC。

2月23日

「昭和六十三年度日本船舶振興会補助事業完了報告書」提出。
事業内容 (1)出版「日本の人口と家族」(和文、英文) (2)スライド「日本の人口と家族」(日、英、中、インドネシア語) (3)レポート「アジアの人口転換と開発―統計集―」(和文、英文)

財団法人 アジア人口・開発協会発足並びに議員活動

<p style="text-align: center;">一九七三・十 (十・十三、二十八)</p>	<p style="text-align: center;">アジア人口事情視察団派遣（インド、タイ、インドネシア、フィリピン）</p> <p style="text-align: center;">国会議員（日本）</p> <p style="text-align: center;">岸 信介（団長）、田中龍夫、八田貞義、佐藤 隆、山崎竜男、加藤シズエ、阿部昭吾</p> <p style="text-align: center;">その他</p> <p style="text-align: center;">W・ドレーパー、J・タイディングス、花村仁八郎、官庁、マスコミ関係等</p>
<p style="text-align: center;">一九七四・四・一</p>	<p style="text-align: center;">『国際人口問題議員懇談会』設立（会長・岸 信介）</p> <p style="text-align: center;">衆・参超党派議員一一九名で発足。</p> <p style="text-align: center;">☆世界で初の試みである。</p>
<p style="text-align: center;">一九七四・四・二十五</p>	<p style="text-align: center;">『食糧と人口に関する宣言』：国連式典</p> <p style="text-align: center;">（於：国連本部）</p> <p style="text-align: center;">宣言書署名・佐藤 隆</p> <p style="text-align: center;">○八月及び十一月の世界人口・食糧会議に先立ち、各国政府に現実的且つ果敢な諸政策を採るよう要請する五項目から成る。</p> <p style="text-align: center;">○人口・食糧問題解決の為、国連にリーダーシップをとることを要請した宣言文。</p>

<p>一九七四・八 (八・十九～三十)</p>	<p>「第三回 国際人口会議」 (於…ブカレスト) 総勢 四五〇〇人 齊藤邦吉(元厚生大臣)、八田貞義、佐藤 隆、 堂森芳夫、柏原ヤス、中沢伊登子 他</p>
<p>一九七四・十</p>	<p>「I P U 列国議会同盟会議」 (於…東京) 参加国…六十五カ国 佐藤 隆 代議士 「食糧と人口問題」ライス・バンク構想を 提唱。</p>
<p>一九七七・九 (九・三～十八)</p>	<p>中南米家族計画視察団(メキシコ、コロンビア、ブラ ジル、アメリカ、カナダ) 国会議員(八名) 岸 信介(団長)、佐藤 隆、住 栄作、 安孫子藤吉、和田耕作、阿部昭吾、福岡義登、 吉寺 宏、他 顧問団(十六名) 大来佐武郎、花村仁八郎 他 UNFPA二名、事務局五名 ○先進国にも、途上国にも、人口問題議員グループ を結成させるべく、各国立法府議員に呼びかけた。</p>

<p>一九七七・十二 (十二・五、十二)</p>	<p>「人口と開発先進国会議」 (ロンドン、ボン、ベルリン) 参加国…日、米、英、加、西独(五カ国…十六名) 日本側…佐藤 隆、和田耕作、土井たか子 ○一九七七年九月の中南米視察に引続き各国立法府議員への呼びかけ。 ○国際議員会議の開催について討議。</p>
<p>一九七八・三 (三・二十八、三十)</p>	<p>「人口と開発列国国会議員(IPOP)東京会議」 ― 第一回 国際会議準備会議 ― 参加国…米、英、加、西独、インド、スリランカ、 メキシコ、ブラジル、コロンビア(九カ国 四十名)、日本(十名) ○運営委員メンバー国、○参加国、○議事日程、 ○予算</p>
<p>一九七八・十 (十・十六、十七)</p>	<p>「IPOP国際会議準備委員会」(第二回) (於…チュニジア) 日本側参加者…佐藤 隆 他 ○開催国、○主催機関、○議題 etc、について</p>
<p>一九七九・三</p>	<p>IPOP国際会議準備委員会(第三回) (於…メキシコ) 日本側参加者…佐藤 隆 他 ○「宣言」の草案作成、○会議規定、○日程 etc</p>

<p>一九七九・八 (八・二十六) 九・二)</p>	<p>「IPOP国際会議」 (於…スリランカ) 参加国…六十四カ国 他、国連各機関、IPPF等 総勢 五五〇名 日本側…岸 信介、佐藤 隆、石本 茂、中村啓一、 柏原ヤス ☆人口問題議員グループ、結成国二十五カ国を超 えるに到ったので、UNFPAに働きかけ、コ ロンボで開催。 一、"コロンボ宣言"採択 この宣言により、一九八一年、アフリカ、 ヨーロッパ、アジアの各大陸での人口会議 が開かれた。 一九八一年 七月 ケニヤのナイロビに 於て 十月 中国の北京に於て 十二月 仏、ストラスブール に於て 一九八二年十二月 ブラジルのリオデジ ヤネイロに於て (予定)</p>
<p>一九八〇・九 (九・十、十三)</p>	<p>「資源、人口、開発に関するアセアン国会議員代表者 会議」 (於…クアラルンプール) 参加国…シンガポール、マレーシア、タイ、フィリ ピン、インドネシア(五カ国) 日本側…佐藤 隆、住 栄作、井上晋方 ○日本はオブザーバーとして参加をし、北京会議 開催を提案。合意を取付けた。</p>

<p>一九八〇・十一</p>	<p>「人口と開発に関するアジア国会議員会議」 日・中打合せ （於…北 京） 佐藤 隆、井上普方 ○開催地北京への正式な可能性打診</p>
<p>一九八一・二</p>	<p>「人口と開発に関するアジア国会議員会議」 第一回運営委員会 （於…東 京） 参加国…日本、中国、インド、スリランカ、 マレーシア ○政治、イデオロギーの問題の除外について</p>
<p>一九八一・三・二十三</p>	<p>佐藤 隆代議士——国連開発計画（UNDP）と アドバイザー契約締結 ○一九七九年八月の「コロンボ宣言」に基づく、 地域IPOP会議の開催とそのフォローアップ を任務とする。</p>
<p>一九八一・六 （六・十九～二十）</p>	<p>「人口と開発に関するアジア国会議員会議」 第二回運営委員会 （於…北 京） 参加国…日本、中国、インド、スリランカ 他 UNFPA 日本側…佐藤 隆、住 栄作、 土井たか子 他五名</p>

一九八一・十
 (十・二十七、三十)

「人口と開発に関するアジア国会議員会議」

開催地…中国北京市
 会場…人民大会堂

(1) 日本側出席者…

- | | | |
|-----|---------|---------|
| 21、 | 阿部昭吾 | (衆・社民連) |
| 20、 | 山口敏夫 | (衆・新自) |
| 19、 | 柄谷道一 | (参・民社) |
| 18、 | 和田耕作 | (衆・民社) |
| 17、 | 矢追秀彦 | (〃) |
| 16、 | 柏原ヤス | (参・公) |
| 15、 | 有島重武 | (衆・公) |
| 14、 | 片山甚市 | (参・社) |
| 13、 | 川本敏美 | (〃) |
| 12、 | 福岡義登 | (〃) |
| 11、 | 土井たか子 | (〃) |
| 10、 | 井上晋方 | (衆・社) |
| 9、 | 林寛子 | (〃) |
| 8、 | 田代由紀男 | (〃) |
| 7、 | 石本茂 | (参・自) |
| 6、 | 粟山明 | (〃) |
| 5、 | 桜井新 | (〃) |
| 4、 | 関谷勝嗣 | (〃) |
| 3、 | 住栄作 | (〃) |
| 2、 | 佐藤隆 | (〃) |
| 1、 | 团长 福田赳夫 | (衆・自) |

秘書数名

同時通訳者

事務局 三名

	一九八一・十・三十
<p>(2) 議長…廖承志(中国全人代副委員長) 副議長…佐藤隆 他五名 司会…陳慕華(中国副総理) 起草委員…住栄作 他五名</p> <p>(3) 主なる日程</p> <p>① 第一日目(十月二十七日) ○福田元首相の特別講演 ○福田元首相、国連平和賞受賞</p> <p>② 第二日目(十月二十八日) ○黒田俊夫博士の 「日本の人口変動の傾向と展望」講演</p> <p>③ 第三日目(十月二十九日) ○住代議士によるカントリー・レポート発表</p> <p>④ 最終日(十月三十日) ○北京宣言採択</p>	<p>「人口と開発に関するアジア国会議員会議 第三回運営委員会」(北京会議最終日同地にて)</p>

<p>一九八二・二・十</p>	<p>財団法人アジア人口・開発協会 創立</p> <p>☆北京会議時の第三回運営委員会に於て、発議された「アジア議員フォーラム」の活動母体として創された。</p> <p>理事長…田中 龍夫（衆議院議員自民党総務会長）</p> <p>副理事長…佐藤 隆（自民党副幹事長）</p> <p>理事…住 栄作（自民党総務局長）</p> <p>〃 …花村仁八郎（経団連副会長）</p> <p>〃 …前田福三郎（日本電波塔㈱社長）</p> <p>監事…斎田慶四郎（勸家族計画国際協力財団 事務局長）</p>
<p>一九八二・三 (三・八、九)</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム暫定委員会」 (於…ニューデリー)</p> <p>参加国…六ヶ国…中国、日本、マレーシア、スリランカ、インド、オーストラリア</p> <p>他機関…UNFPA、IPPF、AYCP</p> <p>日本側…佐藤 隆、井上晋方 他人口問題専門家</p> <p>○一九八一年十月三十日付「北京宣言」に基づき「Asian Forum of Parliamentarians on Population and Development (A. F. P. P. D.)」を人口と開発に関するアジア議員フォーラムを正式に発足。</p> <p>○AFPFD発足に伴い、この委員会はそのままAFPFD第一回運営委員会となった。</p>

一九八二・八
(八・二一三)

「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第一回準備運営委員会」
(於マニラ)

参加国…日本、中国、インド、スリランカ、オーストラリア、フィリピン、他UNDP、UNFPA等
議長…佐藤 隆

○準備委員会及び大会参加国等について
(準備運営委員会役員にフィリピンが加わった)

一九八二・十二
(十二・二一五)

「人口と開発に関するブラジル会議」

(於ブラジル)

参加国…西半球諸国二十ヶ国

議題…西半球諸国の開発・人口・婦人の地位・子供の保護・移民の各問題について。

宣言…各国に「人口と開発に関する国内議員委員会」を形成し、議題としてとりあげた諸問題の改善に向け、積極的に努力する。

一九八三・三
(三・七〇九)

「元大統領・首相会議設立委員会」

(於…ウイーン、ホーフブルグ王宮)

主 催…人口と開発に関するグローバル・コミッテイ
共 催…国連開発計画(UNDP)
発起人メンバー…

日 本・福田赳夫元首相

ウイーン・ワルトハイム前国連事務総長

ルーマニア・マネスク元首相

セネガル・サンゴール前大統領

コロンビア・パストラーナ・ボレロ元大統領

チュニジア・ヌイラ元首相

オブザーバー…イギリス・ヒース元首相

第一回執行委員会…'83年5月東京で開催予定

本会議…'83年秋開催予定

一九八三・五
(五・十九〇二十)

元大統領・首相会議執行委員会

(於…東京)

福田赳夫元首相

ワルトハイム前国連事務総長

ボレロ元コロンビア大統領

第一回本会議…'83年11月中旬オーストリアで開催
予定

<p>一九八三・七・七</p>	<p>財団法人アジア人口・開発協会理事会 厚生、外務、農林水産三省共管認可法人に拡大して 初の理事会で新たに次の十氏が理事に就任。 〆人口・開発・食糧分野 理事 黒田 俊夫 (日大人口研究所顧問) 〃 川野 重任 (東大名誉教授) 〃 小林 和正 (日大人口研究所教授) 〆科学技術・エネルギー・資源分野 理事 本多 健一 (東大工学部教授) 〃 森 一久 (日本原子力産業会議専務理事) 〃 武田修三郎 (東海大工学部教授) 〆行政OB・官界 理事 内村 良英 (元農林事務次官) 〃 翁 久次郎 (元厚生事務次官) 〃 須之部量三 (前外務事務次官) 〆経 済 界 理事 房野 夏明 (経団連総務部長)</p>
<p>一九八三・十 (十・十一・十二)</p>	<p>〆人口と開発に関するアジア議員フォーラム第二回準備運営委員会 (於バンコク) 参加国 日本、中国、インド、フィリピン、 UNDP、UNFPA、IPPF 議長 佐藤 隆 〆大会参加国等について</p>

一九八三・十一
(十六、十八)

「元大統領・首相会議第一回総会」

(於…ウィーン、ホーフブルグ王宮)

主 催…人口と開発に関するグローバル・コミッティー
共 催…国連開発計画 (UNDP)

召 集 者…福田赳夫

議 長…クルト・ワルトハイム (前国連事務総長)
事務総長…ブラッドフォード・モース (UNDP事務総長)

構 成 国…(二十六カ国)

○日 本…福田 赳夫

○国 際 連 合…クルト・ワルトハイム

○カメルーン…アーマッド・アヒジヨ

○イタリ ア…ジュリオ・アンドレオッティ

○ネパール…キルティ・ニデイー・ビスタ

○イギリス…ジェームス・キャラハン

○フランス…ジャック・シャバン・デルマ

○タ イ…クリマンサック・チョマナン

○ザンビア…マテイアス・マインツア・チョーナ

○ハンガリー…イエノ・ホック

○オーストラリア…マルコム・フレージャー

○アルゼンチン…アルトゥーロ・フロンデシイ

○ス イ ス…クルト・フルグラール

○レバノン…セリム・ホス

○ルーマニア…マネア・マネスキュー

○ジャマイカ…ミハエル・マンレー

○チュニジア…ヘデイー・ヌイラ

○ナイジェリア…オルセグン・オバサンジョ

○モ ロ ッ コ…アハメッド・オスマン

○コロンビア…ミサエル・パストラーナ・ボレロ

○ベネズエラ…カルロス・アンドレス・ペレ

	<p>○ポルトガル マリア・ド・ルールド・ピンタシルゴ</p> <p>○ユーゴスラビア ミチャ・リビチツチ</p> <p>○西ドイツ ヘルムート・シュミット</p> <p>○セネガル レオポルド・セゲール・サンゴール</p> <p>○スウェーデン オラ・ウルステン</p>
<p>一九八四・二・十六</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第二回運営委員会」 (於ニユーデリー)</p> <p>参加国…日本、中国、スリランカ、インド、オーストラリア</p> <p>議長…佐藤 隆</p> <p>○第一回大会の具体的手順及び大会以降の展開について</p>
<p>一九八四・二 (十七)(二十)</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第一回大会」</p> <p>開催地…インド・ニューデリー</p> <p>会場…ビギャン・バワン(国際会議場)</p> <p>参加者…三十一カ国、四十七機関…二百九十七名</p> <p>(1)日本側出席者</p> <p>1、名誉団長 福田 赳夫(衆・自)</p> <p>2、団 長 佐藤 隆(〃)</p> <p>3、副団長 井上 普方(衆・社)</p> <p>4、 阿部 昭吾(衆・社民連)</p> <p>5、 矢追 秀彦(衆・公)</p> <p>6、 安孫子藤吉(参・自)</p> <p>7、 柄谷 道一(参・民社)</p> <p>8、 石井 一二(参・自)</p> <p>9、 倉田 寛之(〃)</p>

	一九八四・二・二十
<p>(2) 議 長…バルラム・ジャカール(インド国会議長) 司 会…サット・ポール・ミッタール(アジアフォーラム事務総長) 起草委員…石井一二 他五名</p> <p>(3) 主なる日程</p> <p>① 第一日目(二月十七日) 福田赳夫元首相(グローバル・コミッテイ会長)・歓迎挨拶 インデラ・ガンジーインド首相・歓迎挨拶 ヘルムット・シュミット西独前首相基調演説</p> <p>② 第二日目(二月十八日) 黒田俊夫博士「国家開発政策——人口と開発の新次元」講演</p> <p>③ 第三日目(二月十九日) ランジット・アタバト・スリランカ厚生大臣 「スリランカ・住民参加」講演</p> <p>④ 最終日 ニューデリ宣言採択</p>	<p>「人口と開発に関するアジアフォーラム・各国代表者会議」 参加国…AFPPD公式参加国(十六カ国) UNDP・UNFPA・IPPF 議 長…佐藤 隆</p> <p>○AFPPD活動方針と展望、今後の活動計画について</p>

一九八四・八
(八・六十四)

「国連・国際人口会議」

(於…メキシコ)

参加国…百四十九カ国

日本政府首席代表・湯川宏厚生政務次官

日本政府顧問団

田中龍夫(衆議院議員・自)
佐藤隆(衆議院議員・自)
水田稔(衆議院議員・社)
永井孝信(衆議院議員・社)
矢追秀彦(衆議院議員・公)
柄谷道一(参議院議員・民)
石井一二(参議院議員・自)
黒田俊夫(厚生省人口問題審議会委員)
安川正彬(厚生省人口問題審議会委員)

一九八四・八
(十五、十六)

「人口と開発に関する国際議員会議」(於…メキシコ)
参加国…六十カ国

日本代表団

福田赳夫(衆議院議員・自)
 〈GCPD議長〉
田中龍夫(衆議院議員・自)
佐藤隆(衆議院議員・自)
 〈AFPPD議長〉
水田稔(衆議院議員・社)
永井孝信(衆議院議員・社)
矢追秀彦(衆議院議員・公)
柄谷道一(参議院議員・民)
石井一二(参議院議員・自)
三塚博(衆議院議員・自)

一九八五・二
(二・五〇七)

「第一回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」
(於…東京・外務省国際会議室)

主 催…財団法人・アジア人口・開発協会 (APDA)

出席者…○日本…福田赳夫、田中龍夫、佐藤隆、住

栄作、関谷勝嗣、鹿野道彦、桜井

新 (衆・自民)

安孫子藤吉、倉田寛之、石井一二

(参・自民)

井上普方 (衆・社会)

矢追秀彦 (衆・公明)

高桑栄松 (参・公明)

塩田 晋 (衆・民社)

柄谷道一 (参・民社)

阿部昭吾 (衆・社民連)

○オーストラリア…B・J・グッドラック

○中国…許濂新、何理良

○インド…S・P・ミッター

○インドネシア…マルトノ移住大臣

○韓国…モーイム キン

○マレーシア…ラーマ オスマン交通副大

臣

○ネパール…ドロン シュム シャーラナ

○フィリピン…カルメンシータ レイエス

国務副大臣

○スリランカ…ランジット アタバト厚生

大臣

○タイ…ブンテイウム カマピラド運輸通

信副大臣

日程：第一日目（二月五日）

開会式 APDA理事長・田中龍夫挨拶
内閣総理大臣・中曽根康弘（山崎拓内閣
官房副長官代理）

外務大臣・安倍晋太郎（森山眞弓外務政
務次官代理）

財団法人日本船舶振興会会長・笹川良一
（同財団理事長篠田雄次郎代理）

がそれぞれ祝辞

人口と開発に関するアジア議員フォーラ
ム事務総長・S・P・ミッター挨拶

感謝状贈呈 財団法人・日本船舶振興会
会長 笹川良一（二月五日夕、マツヤサ
ロンで贈呈）

国連人口活動基金事務局長 R・サラス

基調講演・国連人口活動基金事務局長

R・サラス

本会議・セッションI ランジットア
タバト・スリランカ厚生大臣を議長に選
出

セッションII 問題提起

中国人口基礎調査

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

小林和正（日大人口研究所教授）

インド農村人口と農業開発調査

川野重任（東京大学名誉教授）

大内 穂（アジア経済研究所経済成長
調査部長）

<p>タイ人口と開発基礎調査・社会福祉関連調査</p> <p>黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）</p> <p>山本幹夫（帝京大客員教授・総合保健研究所長）</p> <p>日本の人口転換と農村開発</p> <p>岡崎陽一（厚生省人口問題研究所長）</p> <p>阿部 誠（厚生省人口問題研究所人口資質部長）</p> <p>日本の農業・農村開発と人口——その軌跡（スライド）</p> <p>第二日目（二月六日）</p> <p>セッションⅢ・Ⅳ 総括討論</p> <p>第三日目（二月七日）</p> <p>セッションⅤ 閉会</p>	<p>一九八五・四 （二十四～二十六）</p>
<p>「元大統領・首相会議第三回総会」 （於…パリ国際会議場）</p> <p>名誉議長…福田赳夫元首相</p> <p>議長 長…ワルトハイム前国連事務総長</p> <p>事務総長…ブラッドフォード・モースUNDP事務総長</p> <p>参加国…二十四ヶ国</p> <p>○それまでの、三つの主要課題に加え、人口問題が取り上げられることに決定。</p> <p>○第四回総会は、一九八五年四月、日本で開催される予定。</p>	

	<p>○佐藤隆代議士（人口と開発に関する世界委員会常任理事）が、特別講演を行ない、OBサミットで人類の生存と平和を脅かす「人口問題」を取りあげるよう進言。その結果、主要課題の一つにすることを決定。人口問題に関するタスクフォースを組織し、主幹に福田赳夫元首相が就任することになった。</p>
<p>一九八五・五 （十三、十四日）</p>	<p>「第二回人口と開発に関するインド議員会議」 （於…ニューデリー国際会議場）</p> <p>参加者数…約四百名</p> <p>○日本からは、佐藤隆代議士（人口と開発に関するアジア議員フォーラム議長）が、開会式に来賓として出席、基調講演した。</p>
<p>一九八六・三 （三・三、五）</p>	<p>「第二回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」 （於…東京・経団連国際会議場）</p> <p>主催…財団法人・アジア人口・開発協会（APDA）</p> <p>出席者…○日本…福田赳夫、田中龍夫、佐藤隆、住栄作、鹿野道彦、桜井新（衆・自民）</p> <p>安孫子藤吉、林寛子、石井一二 （参・自民）</p> <p>水田稔、土井たか子（衆・社会）</p> <p>矢追秀彦（衆・公明）</p> <p>高桑栄松、塩出啓典（参・公明）</p> <p>柄谷道一（参・民社）</p> <p>○中国…何理良</p> <p>○インド…S・P・ミッタール、D・C・ジャイン</p>

- インドネシアⅡ マルトノ移住大臣
- 韓国Ⅱ ジャンスック・キム
- スリランカⅡ P・M・B シリル県大臣
- タイ ブンテイウム・カマピラド運輸通
信副大臣

日 程・・第一日目（三月三日）

開会式（司会 林 寛子）

A P D A 理事長・田中龍夫挨拶

外務大臣・安倍晋太郎（浦野然興外務政
務次官代理）挨拶

国際人口問題議員懇談会会長・福田赳夫
歓迎挨拶

人口と開発に関するアジア議員フォーラ
ム事務総長・S・P・ミッター参加者
代表挨拶

国連人口活動基金事務局長 R・サラス
来賓挨拶

本会議・・セッション I 住 栄作議員を議
長に選出

セッション I-1・2 問題提起

中国人口家族計画基礎調査

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

小林和正（日大人口研究所教授）

インド人口・開発基礎調査

嵯峨座晴夫（早稲田大学文学部教授）

タイ農村人口と農業開発調査

川野重任（東京大学名誉教授）

原 洋之介（東京大学東洋文化研究所

助教）

バンコクの人口都市化と生活環境・福祉
調査

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

ネパール人口家族計画基礎調査

松本信雄（東京慈恵会医科大学教授）

大内 穂（アジア経済研究所経済成長

調査部長）

日本の人口都市化と開発

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

岡崎陽一（厚生省人口問題研究所長）

日本の都市化と人口（スライド）

セッションⅠ－3 討議

第二日目（三月四日）

セッションⅡ（議長 住栄作議員）

各国カントリレポート及び討議

セッションⅢ（議長 佐藤 隆議員）

総括討議

閉会式

第三日目（三月五日）

都内視察

<p>一九八六・五 (五・十二～十六)</p>	<p>「人口と開発に関するアフリカ国会議員会議 開催地…ジンバブエ・ハラレ市 参加国…三十九ヶ国 主催…人口と開発に関する国会議員世界委員会 ジンバブエ議会 *『ハラレ宣言』採択 ○アフリカの議会制度を持つ国は三十六ヶ国、 この内三十一ヶ国と議会制度を持たぬ国八ヶ 国がオブザーバーとして参加したが、これは アフリカにおいて過去開催された議員会議の 中で最大規模のもの。</p>
<p>一九八六・九 (九・二十六～十二)</p>	<p>ネパール人口事情視察議員団派遣 参加議員(計十名) 福田赳夫(名誉団長)、田中龍夫(団長)、 佐藤 隆、桜井 新、金子みつ、矢追秀彦、 安倍基雄、扇 千景、石井一二、高桑栄松 ○ネパールに発足したての人口・開発議員連盟 等との会議も行なわれた。</p>
<p>一九八六・十 (十・六～七)</p>	<p>「人口と開発に関するアフリカ議員カウンシル」発足 会議 開催地…ケニヤ・ナイロビ市 参加国…アフリカ十三ヶ国、他五ヶ国、他九機関 ○同年五月十六日付ジンバブエにて採択された 「ハラレ宣言」に基き、アフリカ地域におけ る各国の人口・開発議員グループ間での意見 交換等の活動を調整・促進、また「ハラレ宣 言」をフォローする等のため同カウンシルを 正式に発足したもの。 初代議長には、マダガスカルのジャン・ルイ・ ラマンドライアリソア氏が就任。</p>

一九八六・十
(十・十七、十八)

「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」
(於・ジャカルタ)

参加国…日本、中国、スリランカ、インド、シリア、インドネシア、他八機関

議長…佐藤 隆(日本)

○第二回 A F P D 総会を一九八七年十月二十三日、北京にて開催することを正式に決定。

一九八七・二
(二・二十三)

(二十四)

「第三回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」

(於・バンコク・タイ国国会議事堂 エスカップ会議場)

主催…財団法人アジア人口・開発協会 (A P D A)

出席者…○日本…福田赳夫、佐藤隆(衆・自民)

林寛子、石井一二(参・自民)

伊藤忠治(衆・社会)

有島重武(衆・公明)

阿部昭吾(衆・社民連)

○中国…ヤン・レン・ヤン、何理良

○インド…S・P ミッタール、M・ブラシ

ヤド

○インドネシア…マルトノ移住大臣

○韓国…K・J・ドンク

○マレーシア…R・オスマン運輸副大臣

○ネパール…D・S・ラナ、P・B・サポ

コタ

○シリア…H・サディック

○スリランカ…U・B・ウイジェクーン

(ジャフナ自治大臣)

○タイⅡブラソップ・R、M・L・トリド
シユス、V・ビトゥーン・O、プ
アングルト・W、ブーンスク・L

日 程…第一日目（二月二十三日）

開会式（於…タイ国会議事堂会議場）

開会の辞…ウクリット・M（タイ国国会
議長）

主催者挨拶…佐藤隆（APDA副理事長）

来賓挨拶Ⅱ J・S・シン（サラスUNF
PA事務局長・代理）

来賓挨拶Ⅱ 福田起夫（国際人口問題議員
懇談会会長）

主催国挨拶Ⅱ ブラソップ・R（タイ国人

口問題議員懇談会会長）

本会議…セッションI 問題提起・質疑

応答

（於…エスカップ・会議場）

議長…

インドネシア 人口・開発基礎調査

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

インドネシア 農村人口と農業開発調査

原 洋之介（東大東洋文化研究所助教

授）

タイ 村落レベルでの人口と開発

ミツチャイ・V（PCDP事務局長）

第二日目（二月二十四日）

セッションI-2 問題提起・質疑応答
（於…エスカップ会議場）

現在及び将来の開発計画に関する年齢構造変動の政策的合意

ニボン・デババルヤ（エスカップ人口部部长）

日本の労働力人口と開発

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

日本の産業発展と人口（スライド・制作APDA）

セッションII-1/2

各国カントリレポート発表および討議

総括討議

閉会式

一九八七・九
(九・二三～二五)

「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第二回大会」

期 日…九月二十三日～二十五日

開催地…中国・北京市

会 場…人民大会堂、崑崙ホテル国際会議場

参加者…二十九ヶ国、十六機関…約二百名

(1) 日本代表出席議員

名誉団長…福田 赳 夫（衆・自民）

団 長…佐藤 隆（衆・〃）

谷 津 義 男（衆・〃）

林 寛 子（参・〃）

田 代 由紀男（参・〃）

石 井 一二（参・〃）

副団長..井上 普方(衆・社会)

城地 豊司(衆・〃)

有島 重武(衆・公明)

矢追 秀彦(衆・〃)

高桑 栄松(参・〃)

三治 重信(参・民社)

阿部 昭吾(衆・社民)

(2) 議長..佐藤 隆(日本)

副議長..胡 克 實(中国)

〃 ..P・ラタナクーン(タイ)

〃 ..M・チョードウリー(バングラデシュ)

起草委員..G・S・ヤジャン(インド)

ツアン・ツォングリー(中国)

矢追 秀彦(日本)

R・ラモス・シャハニ(フィリピン)

B・グッドラック(オーストラリア)

(3) 主なる日程

① 開会式

*趙紫陽・中国首相、他の挨拶

*福田赳夫・日本国元首相の基調講演

② セッション

① アジアの人口と開発

② アジアの保健サービス・家族計画

③ 都市化

④ アジアの人口と食糧

⑤ 人口高齢化

③ A F P P D 北京宣言採択

④ A F P P D 規約採択

⑤ A F P P D 役員改選(9ヶ国)

*議長には佐藤隆議員(日本)が再任された。

一九八七・九
(九・二六～二九)

中国人口事情視察議員団派遣(山東省)

団 長…有 島 重 武(衆・公明)
谷 津 義 男(衆・自民)
城 地 豊 司(衆・社会)
高 桑 栄 松(参・公明)
三 治 重 信(参・民社)

他、随行者7名

*中国・国家計画生育委員会との協力で、山東省にて実施されている家族計画プロジェクトを視察。

一九八八・二～三
(二・二九～三・一)

「第四回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」

(於…クアラルンプール・マレーシア国会会議事堂
パンパシフィックホテル・ボールルームB)

主 催…財団法人アジア人口・開発協会(A P D A)
共 催…マレーシア人口・資源・開発議員連盟
出席者…○日本…田中龍夫(衆・自)

林寛子、石井一二(参・自)

坂上富夫(衆・社)

有島重武(衆・公明)

三治重信(参・民社)

○オーストラリア…B・J・グッドラック

○中国…胡克実

○インド…J・R・グブタ

○韓国…K・J・ドング

○ネパール…P・B・シャヒ

○ニュージーランド…S・デイビス

○シンガポール…S・サニフ

○スリランカ…R・アタバト

○シリア||G・タヤラ

○タイ||ブラソツブ・R、チュムサイ・H

○マレーシア||A・H・A・バダウイ、P・

H・ラーマ・オスマン、A・

H・イブラヒム、Z・A・ジ

ン、M・ザカリヤ、I・M・

サイド、Z・M・ハツサン、

A・R・ベイカー、S・S・ス

ブラマニアム、M・T・イス

マエル、C・J・メン

日程：第一日目（二月二十九日）

開会式（於マレーシア国会議事堂会議場）

主催者挨拶：田中龍夫（APDA理事長）

共催者挨拶：A・バダウイ（マレーシア

人口・資源・開発議員連盟

会長）

来賓挨拶：胡克実（AFPFD副議長）

来賓挨拶：J・S・シン（N・サディツ

クUNFPA事務局長・代理）

主催国挨拶：モハメッド・ザヒール（マ

レーシア国下院議長）

本会議：セッション I-1

問題提起・質疑応答

（於バンパシイフィックホテル・ボ

ールームB）

中国 | 人口・開発基礎調査

黒田俊夫（日本大学人口研究所名誉
所長）

	<p>中国 ― 農村人口と農業開発調査 濱下武志（東京大学東洋文化研究所 助教授）</p> <p>マレーシア ― 都市化・人口移動・開 発</p> <p>K・サレイ（マレーシア経済研究所 所長）</p> <p>マレーシア ― 農業と農村開発</p> <p>K・カチャ（農業大学副総長）</p> <p>アジア諸国の人口と農業政策</p> <p>G・D・ネス（ミシガン大学教授）</p> <p>第二日目（三月一日）</p> <p>スライド“日本の人口移動と経済発展” （APDA制作）</p> <p>セッションII</p> <p>各国カントリーレポート発表および討 議</p> <p>総括討論</p> <p>閉会式</p>
--	---

『アジア人口30億人の日』（於…東京プリンスホテル）
共催…人口と開発に関するアジア議員フォーラム、国
際人口問題議員懇談会、財団法人アジア人口・
開発協会

主な出席者

（敬称略）

〔国会議員〕

- 福田 赳夫（衆・自民） 永野 茂門（参・自民）
- 田中 龍夫（衆・〃） 金子 みつ（衆・社会）
- 佐藤 隆（衆・〃） 有島 重武（衆・公明）
- 鹿野 道彦（衆・〃） 矢追 秀彦（衆・〃）
- 谷津 義男（衆・〃） 山田 英介（衆・〃）
- 石本 茂（参・〃） 高桑 栄松（参・〃）
- 扇 千景（参・〃） 中西 珠子（参・〃）
- 田代由紀男（参・〃） 三治 重信（参・民社）
- 石井 一二（参・〃） 阿部 昭吾（衆・社民）

〔来 賓〕

マレーシア国……ラーマ・オスマン上院議員
インド国……サット・ポール・ミッタール

前上院議員

- 国連人口基金（UNFPA）事務次長功刀 達郎
- 国際家族計画連盟（IPPF）東・東南アジア・
太平洋理事会会長
ジョアン・タンブ

〔国際機関〕

- 国連人口基金（UNFPA）広報渉外部長
ジョテイ・シン
- 国連人口基金（UNFPA）企画調整局長
安藤 博文

国連開発計画（UNDP）東京連絡事務所所長

石樽 利光

〔在日大使館〕

オーストラリア大使館 A・T・カルバート代理大使

〔官 界〕

外務省 金子 義和 国際連合局社会協力課長

厚生省 河野 稠果 人口問題研究所所長

厚生省 内野 澄子 人口問題研究所人口構造部長

総務庁 三浦 由己 統計局長

環境庁 森 幸男 企画調整局長

長谷川慧重 大気保全局長

〔学識経験者〕

黒田 俊夫 日本大学人口研究所名誉所長

川野 重任 東京大学名誉教授

安川 正彬 慶応大学経済学部教授

大内 穂 アジア経済研究所総合研究部主幹

武田修三郎 東海大学工学部教授

畑井 義隆 明治学院大学経済学部教授

吉田 長雄 アジア生産性機構事務局長

日程

第一部（アナウンスメント）

「アジア人口30億人の日」

人口と開発に関するアジア議員フォーラム議長

佐藤 隆

第二部（記念講演）

「30億人を取り囲む環境問題」（記念講演）

環境庁長官 堀内 俊夫

「アジアは30億人をどう支えるか」ミシガン大学教授

	<p style="text-align: center;">ゲイル・D・ネス</p> <p style="text-align: center;">第三部 記者会見</p> <p style="text-align: center;">第四部 レセプション</p>
<p style="text-align: center;">一九八八・ 十・十九～二十六</p>	<p>バン格拉デシユ人口事情視察議員団派遣</p> <p>団 長・・中西 一郎（参・自民）</p> <p>副団長・・井上 普方（衆・社会）</p> <p>田代由紀男（参・自民）</p> <p>武村 正義（衆・自民）</p> <p>平石磨作太郎（衆・公明）</p> <p>大矢 卓史（衆・民社）</p> <p style="text-align: center;">（他随 行四名）</p> <p>○パンチドナにおける家族計画プロジェクト視察、人口・開発関係議員との合同会議等を行った。</p>
<p style="text-align: center;">一九八八・ 十一・二十八</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」（於東京）</p> <p>参加国・・オーストラリア、中国、インド、日本、マレーシア、シリア、タイ、他二機関。</p> <p>議長・・佐藤 隆（日本）</p> <p>○アジア人口30億人の日の行事の成果、今後の活動計画について。</p>

「第五回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」

(於 フィリピン国・マニラ P I C C)

主催…財団法人アジア人口・開発協会 (A P D A)

共催…フィリピン人口と開発国会議員委員会

出席者…

○日本…福田赳夫、田中龍夫、佐藤隆、武村正義 (衆
・自)、関山信之 (衆・社)、矢追秀彦 (衆
公明)、阿部昭吾 (衆・社民)

○中国…胡克實

○インド…S・P・ミッタール、S・ジョシイ、V・
バーマ

○インドネシア…マックボン

○韓国…S・S・モック、L・J・ロール

○マレーシア…R・オスマン、Z・A B・ザアイン

○ネパール…T・J・タパ

○シリア…H・サディック

○タイ…プラソップ・R、トリトシユス・D、プアン
グラット・V

○フィリピン…L・R・シャハニ、T・アキノオレタ、
J・エストラダ、E・ヘレラ、O・メルカド、
S・ラスル

日 程…第一日目 (二月十七日)

開会式 (於…P I C C ルーム 4)

開会の辞…T・アキノオレタ (フィリピン人
口・開発国会議員委員会副委員長)

共催者挨拶…L・R・シャハニ (フィリピン
人口・開発国会議員委員会委員長)

主催者挨拶…田中龍夫 (A P D A 理事長)

	<p>来賓挨拶…福田超夫（人口と開発に関する国会議員世界委員会会長）</p> <p>来賓挨拶…S・P・ミッター（AFPPD事務総長）</p> <p>来賓挨拶…J・S・シン（N・サディックUNFPA事務局長・代理）</p> <p>来賓挨拶…T・K・マンガ（UNFPA地域事務所長）</p> <p>基調講演…S・C・モンソダ（フィリピン国家経済開発庁長官）</p> <p>本会議（於…PICCルームII）</p> <p>セッションI 人口と開発調査研究</p> <p>中国——人口・開発基礎調査</p> <p>黒田俊夫（日本大学人口研究所名誉所長）</p> <p>フィリピン——農村における家族計画指導</p> <p>J・フラビエ（国際農村再建研究所所長）</p> <p>挨拶</p> <p>佐藤隆（AFPPD議長）</p> <p>スライド「日本の人口と家族」（APDA制作）</p> <p>第二日目（二月十八日）</p> <p>セッションII 21世紀に向けて——人口転換と経済社会開発</p> <p>各国カントリーレポート及び討議</p> <p>総括討論</p> <p>閉会式</p>
--	--

	<p>一九八九・</p> <p>二・十九</p>
	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」(於 フィリピン・プラザホテル会議室)</p> <p>参加国…中国、インド、日本、マレーシア、フィリピン、シリア、タイ 他三機関</p> <p>○AFPFDの長期展望及び婦人会議開催について</p>

本協会実施調査報告書及び出版物

昭和58年度

1. 中華人民共和国人口家族計画基礎調査報告書
Basic Survey on Population and Family Planning
in the People's Republic of China (英語版)
生育率和生活水平关系中日合作调查研究报告书
(中国語版)

昭和59年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書
—インド国—
Report on the Survey of Rural Population and
Agricultural Development in Asian Countries
—India— (英語版)
2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書
—タイ国—
Report on the Basic Survey of Population and Deve-
lopment in Southeast Asian Countries
—Thailand—

3. 日本の人口転換と農村開発

Demographic Transition in Japan and Rural Deve-
lopment (英語版)

4. Survey of Fertility and Living Standards in Chinese
Rural Areas —Data— All the households of two
villages in Jilin Province surveyed by questionnaires
(英語版)

关于中国农村的人口生育率与生活水平的调查报告
— 对于吉林省两个村进行全戸面談調查的結果 —
—统计編— (中国語版)

5. スライド 日本の農業、農村開発と人口
— その軌跡 — (日本語版)

Agricultural & Rural Development and, Population
in Japan (英語版)

日本农业农村的发展和人口的推移 (中国語版)

Perkembangan Pertanian, Masyarakat Desa Dan
Kependudukan Di Jepang (インドネシア語版)

(以上4カ国版スライドは、日本産業教育スライドコ
ンクールにて優秀賞を受賞しました。)

昭和60年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書
——タイ国——
Report on the Survey of Rural Population and
Agricultural Development in Asian Countries
——Thailand—— (英語版)
2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書
——インド国——
Report on the Basic Survey of Population and
Development in Southeast Asian Countries
——India——
3. 中華人民共和国人口・家族計画第二次基礎調査報告書
Basic Survey (II) on Population and Family Planning
in the People's Republic of China
生育率和生活水平关系第二次中日合作调查研究报
告书 (中国語版)
4. ネパール王国人口・家族計画基礎調査
Basic Survey Report on Population and Family
Planning in the Kingdom of Nepal (英語版)

5. 日本の人口都市化と開発
Urbanization and Development in Japan (英語版)
6. バンコクの人口都市化と生活環境・福祉調査
——データ編——
Survey of Urbanization, Living Environment and
Welfare in Bangkok ——Data——
(英語版)
7. スライド
日本の都市化と人口 (日本語版)
Urbanization and Population in Japan (英語版)
日本の城市化与人口 (中国語版)
Urbanisasi Dan penduduk Di Jepang
(インドネシア語版)

昭和61年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書
——インドネシア国——
Report on the Survey of Rural Population and
Agricultural Development in Asian Countries
——Indonesia—— (英語版)

2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書
——インドネシア国——
Report on the Basic Survey of Population and
Development in Southeast Asian Countries
——Indonesia——（英語版）
3. 在日留学生の学習と生活条件に関する研究
—— 人的能力開発の課題に即して ——
4. 日本の労働力人口と開発
Labor Force and Development in Japan（英語版）
5. 人口と開発関連統計集
Demographic and Socio-Economic Indicators on
Population and Development（英語版）
6. スライド 日本の産業開発と人口
——その原動力・電気——（日本語版）
Industrial Development and Population in Japan
——The Prime Mover-Electricity——（英語版）
日本の产业发展与人口
——其原动力-曳气——（中国語版）
Pembangunan Industri dan kependudukandi Jepang
——Penggerak Utama-Tenga Listrik——
（インドネシア語版）

7. ネパール王国人口家族計画第二次基礎調査
Complementary Basic Survey Report on Population
and Family Planning in the kingdom of Nepal

昭和62年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書
——中華人民共和国——
Report on the Survey of Rural Population and
Agricultural Development in Asian Countries
——China——（英語版）
2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書
——中華人民共和国——
Report on the Basic Survey of Population and
Development in Southeast Asian Countris
——China——（英語版）
3. アジア諸国からの労働力流出に関する調査研究
——フィリピン国——
4. 日本の人口と農業開発
Population and Agricultural Development in Japan
（英語版）

5. ネパールの人口・開発・環境
Population, Development and Environment in Nepal
(英語版)

6. スライド
日本の人口移動と経済発展 (日本語版)
The Migratory Movement and Economic Development in Japan (英語版)
日本の人口移動と经济发展 (中国語版)
Perpindahan Penduduk Dan Perkembangan Ekonomi Di Jepang (インドネシア語版)

7. トルコ国人口家族計画基礎調査

昭和63年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書
——ネパール国——
Report on the Survey of Rural Population and Agricultural Development ——Nepal—— (英語版)

2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書
——中華人民共和国——

Report on the Basic Survey of Population and Development in Southeast Asian Countries
——China—— (英語版)

3. アジア諸国からの労働力流出に関する調査研究
——タイ国——

4. 日本の人口と家族
Population and the Family in Japan (英語版)

5. アジアの人口転換と開発——統計集——
Demographic Transition and Development in Asian Countries ——Overview and Statistical Tables——
(英語版)

6. スライド
日本の人口と家族 (日本語版)
Family and Population in Japan
——Asian Experience—— (英語版)
日本の人口と家庭 (中国語版)
Penduduk & Keluarga Jepang (インドネシア語版)

7. ペルー共和国人口家族計画基礎調査

平成元年3月31日発行（季刊）

「アジア 人口と開発」 №28

発行者 田中龍夫

発行所 財団法人 アジア 人口・開発協会

〒100 千代田区永田町2-10-2

永田町TBRビル710号

TEL 03(581)7770(代表)